

一等水準点検測成果集録

第 36 卷

(平成3年度観測)

平成5年2月

建設省国土地理院

建設省国土地理院 記

本集録は、平成3年度に、国土地理院が行った一等水準点検測の結果を集録、図示したものである。

平成5年2月

建設省国土地理院

一等水準点検測成果集録

第 36 卷

(平成3年度観測)

目 次

1. 観測器械および観測法	3
(1) 観 測 器 械	
(2) 観 測 法	
2. 検測区域および期間	8
3. 水準点変動図の説明	14

付 図 一等水準路線図
 一等水準点変動図

1. 観測器械および観測法

平成3年度において使用した観測器械および観測法は次のとおりである。

(1) 観測器械

A 水準儀

水準儀名称	望遠鏡倍率	水準器感度
Wild 製N3型精密水準儀	42倍	10" / 2mm (合致式)
Carl Zeiss Jena 製NI 002型精密自動水準儀	40倍	公称視準精度 0.05

B 水準標尺

水準標尺名称	長さ	目盛部の状況	
		材質	目盛法
Wild 精密水準標尺	3m	インバール(巾 2.6cm, 長さ 3m)	インバール帯の中央線の両側に5mmの差をもって10mmごとに目盛る。
Carl Zeiss Jena 製精密水準標尺	3m	〃	〃
測機舎製精密水準標尺	3m	ニュースーパーインバール(巾 2.5cm, 長さ 3m)	〃

(2) 観測法

観測に際しては、地上によく踏みこんだ鉄製標尺台に、標尺を尺付属の円形水準器によって鉛直に立て、水準儀は、両標尺間の中央に整置し、後視—前視、更に前視—後視の順序に観測を行う。

整準ねじによってまず、円形水準器の気泡を中央に導き、第1回視準（後視—前視）は左側目盛分画線、第2回視準（前視—後視）は右側目盛分画線を視準する。

Wild 製N3型精密水準儀の場合は微傾動ねじによって主水準器気泡の映像を合致させ、測微装置によって、くさび型十字糸で分画線を正しく挟んで10分の1mmまで読みとる。

Carl Zeiss Jena 製NI 002型精密自動水準儀の場合は第1回視準はコンペンセーターがIの

位置，第2回視準はコンペンセーターが，Ⅱの位置において測微装置によつてくさび型十字糸で分画線を正しく挟んで10分の1mmまで読みとる。

水準儀と標尺の距離は，平地で通常50m以内とし，各水準点間2km，（地点標に併設された水準点間は1km）を往復観測を行い，その往復差は， $2.5\sqrt{S}$ mm（Sは片道の観測距離でkm単位）以内である。

なお，標尺の検定は，定期的にレーザー干渉計又は基準尺により比較測定して行い，観測値に所要の補正をする。

付 表

平成3年度以前において使用した観測器および観測法

(1) 観 測 器 械

A 水 準 儀

観 測 年 度	水 準 儀 名 称	望 遠 鏡 倍 率	水 準 器 感 度
大正13年 (1924) 以前	Carl Bamberg 製 一等水準儀 (Y型)	36 倍	4" ~ 5" / 2 mm
昭和27年 (1952) 以前	Carl Zeiss 製Ⅲ型精密水 準儀	36 倍	4" ~ 12" / 2 mm (合致式)
昭和30年 (1955) 以前	Carl Zeiss 製Ⅲ型精密水 準儀	36 倍	〃
	Wild 製N 3型精密水準儀	42 倍	10" / 2 mm (合致式)
昭和42年 (1967) 以前	Wild 製N 3型精密水準儀	42 倍	〃
昭和44年 (1969) 以前	Wild 製N 3型精密水準儀	42 倍	〃
	Zeiss 製 N I 2型精密自動水準儀	32 倍	円形水準器 8'
昭和53年 (1978) 以前	Wild 製N 3型精密水準儀	42 倍	10" / 2 mm (合致式)
昭和54年 (1979) 以後	Wild 製N 3型精密水準儀 Carl Zeiss Jena 製 N I 002型精密自動水準儀	42 倍 40 倍	10" / 2 mm (合致式) 公称視準精度 0.05

B 水 準 標 尺

観 測 年 度	水 準 標 尺 名 称	長 さ	目 盛 部 の 状 況	
			材 質	目 盛 法
大正13年以前 (1924)	Carl Bamberg 製 水準標尺	3 m	露国産自然乾燥赤 楊	木部の表面に直接 5 mmごとに目盛る
昭和27年以前 (1952)	Carl Zeiss 製 精密水準標尺	3 m	インバール (巾 2.6cm, 長さ 3 m のもの)	インバール帯の中 央線の両側に2.5 mmの差をもって5 mmごとに目盛る

観測年度	水準標尺名称	長さ	水準器感度	
			材質	目盛法
昭和30年以前 (1955)	Carl Zeiss 製精密水準標尺	3 m	インバール (巾2.6cm, 長さ3 mのもの)	インバール帯の中央線の両側に2.5mmの差をもって5mmごとに目盛る
	Wild 製精密水準標尺	3 m	〃	同上5mmの差をもって10mmごとに目盛る
昭和42年以前 (1967)	Wild 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
昭和44年以前 (1969)	Wild 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
	Zeiss 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
昭和53年以前 (1978)	Wild 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
平成元年以前 (1989)	Wild 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
	Carl Zeiss Jena 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
平成2年以後 (1990)	Wild 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
	Carl Zeiss Jena 製精密水準標尺	3 m	〃	〃
	測機舎製精密水準標尺	3 m	ニュースーパーインバール (巾2.5cm 長さ3 mのもの)	〃

(2) 観測法

観測器械 区分	Carl Bamberg	Carl Zeiss	Wild N3	Zeiss NI 2	Carl Zeiss Jena NI 002
視準順序	上方分画— 下方分画	後視—前視 —前視—後視	後視—前視 —前視—後視	後視—前視 —前視—後視	後視—前視 —前視—後視
読定単位	0.01mm	0.01mm	0.1mm 昭和35年以前 は0.01mm	0.1mm	0.1mm
標尺距離 (平坦地)	最大40m	最大40m	最大50m 昭和45年以前 は最大60m	最大50m	最大50m

観測器械 区分	Carl Bamberg	Carl Zeiss	Wild N 3	Zeiss NI 2	Carl Zeiss Jena NI 002
往復差の制限 Sは片道の 観測距離で km単位	$1.5\sqrt{2S}$ mm	$1.5\sqrt{2S}$ mm	$2.5\sqrt{S}$ mm 昭和35年以前 は $1.5\sqrt{2S}$ mm 昭和36年から 昭和39年まで は $2.0\sqrt{2S}$ mm	$2.5\sqrt{S}$ mm	$2.5\sqrt{S}$ mm
環閉合の制限	$1.5\sqrt{S}$ mm	$1.5\sqrt{S}$ mm	$2.0\sqrt{S}$ mm	$2.0\sqrt{S}$ mm	$2.0\sqrt{S}$ mm

2. 検測区域及び期間

変動図 番 号	検 測 区 間	不動とした水準点番号	キロ 数	検 測 期 間	頁
3-1	自 北海道白老郡白老町 B. M 7223	B. M 7223	140	自 平成3年5月	17
	至 " 様似郡様似町 B. M 7999			至 " 10月	
	自 " 空知郡栗沢町 B. M 7339		63	自 " 7月	
	至 " 苫小牧市 B. M 交7			至 " 9月	
3-2	自 青森県青森市 B. M 6050	B. M 6050	23	自 平成3年5月	20
	至 " " B. M 附15			至 " "	
3-3	自 青森県八戸市 B. M 準基 528	B. M 6959	18	自 平成3年10月	21
	至 " " B. M 6956			至 " "	
3-4	自 宮城県仙台市 B. M 交2179	B. M 2168	26	自 平成3年8月	22
	至 " 岩沼市 B. M 2168			至 " 9月	
	自 " 仙台市 B. M 004-352	15	自 " 8月		
	至 " 宮城郡利府町 B. M 5654		至 " 9月		
3-5	自 茨城県古河市 B. M 2028	B. M 2028	43	自 平成3年11月	23
	至 " " B. M 2028			至 " 12月	
	自 埼玉県北葛飾郡栗橋町 B. M 2025	19	自 " "		
	至 茨城県古河市 B. M 2028		至 " "		
3-6	自 東京都千代田区 B. M 甲	B. M 甲	163	自 平成3年11月	24
	至 千葉県船橋市 B. M 3825			至 " 12月	
3-7	自 東京都千代田区 B. M 甲	B. M 甲	82	自 平成3年11月	26
	至 千葉県千葉市 B. M 千葉県水準原点			至 " 12月	
	自 東京都中央区 B. M 交無号	8	自 " 11月		
	至 " 千代田区 B. M 交4		至 " 12月		
3-8	自 千葉県君津市 B. M 3857	B. M 3857	65	自 平成3年11月	27
	至 " 勝浦市 勝浦験潮場固定点			至 " 12月	
	自 " 鴨川市 B. M 3895	16	自 " 11月		
	至 " 安房郡和田町 B. M 3887		至 " "		

変動区 番号号	検 測 区 間	不動とした水準点番号	キ ロ 数	検 測 期 間	頁
3-9	自 千葉県富津市 B. M 3863 至 " 安房郡和田町 B. M 3887 自 " 館山市 B. M 3880 至 " " B. M 布良検潮所固定点 自 " 館山市 B. M 3880-5 至 " 安房郡和田町 B. M 3887	B. M 3857 " " "	48 13 28	自 平成3年11月 至 " 12月 自 " 11月 至 " 12月 自 " " 至 " "	28
3-10	自 東京都千代田区 B. M 甲 至 神奈川県三浦市 B. M 5367-2 自 " 横浜市 B. M 基25 至 " 藤沢市 B. M 交36-1	B. M 甲 " " "	87 14	自 平成3年11月 至 平成4年2月 自 平成3年11月 至 12月	30
3-11	自 神奈川県中郡二宮町 B. M 42-1 至 " 熱海市 B. M 交52 自 " 小田原市 B. M 43-1 至 静岡県御殿場市 B. M 10093	B. M 42-1 " " "	77 42	自 平成3年11月 至 平成4年2月 自 平成3年11月 至 平成4年2月	32
3-12	自 神奈川県熱海市 B. M 交52 至 " 三浦市 油壺験潮場固定点 自 " 足柄下郡湯河原町 B. M 49-1 至 " " 真鶴町 B. M 附4307	B. M 交52 " " "	98 2	自 平成4年2月 至 " 3月 自 " 2月 至 " 3月	34
3-13	自 東京都大島支庁大島町 B. M 10232 至 " " B. M "	B. M 10232 "	22	自 平成4年3月 至 " "	36
3-14	自 静岡県熱海市 B. M 交52 至 " 伊東市 B. M 伊東験潮場固定点 自 " 沼津市 B. M 内海検潮所球分体 至 " " B. M 9400 自 " " B. M 9400 至 " 伊東市 B. M 9341 自 " 田方郡中伊豆町 B. M 48-003-012 至 " 伊東市 B. M 48-003-000	B. M 9400 " " " " "	41 1 42 13	自 平成3年6月 至 " " 自 " " 至 " " 自 " 5月 至 " 6月 自 " " 至 " "	37

変動区 番号	検 測 区 間	不動とした水準点番号	キ ロ 数	検 測 期 間	頁
3-14	自 静岡県田方郡修善寺町 B. M 48-136-012	B. M 9400	41	自 平成3年6月	39
	至 " 賀茂郡河津町 B. M 9353	" "		至 " "	
	自 " 伊東市 B. M 9341	" "	25	自 " "	
	至 " 賀茂郡河津町 B. M 9353			至 " "	
3-15	自 静岡県引佐郡三ヶ月町 B. M 基38	B. M 140-1	59	自 平成3年7月	41
	至 " 掛川市 B. M 140-1			至 " "	
	自 " 掛川市 B. M 140-1	" "	48	自 " "	
	至 " 静岡市 B. M 128-1			至 " "	
	自 " 藤枝市 B. M 132	" "	44	自 " "	
	至 " 榛原郡相良町 B. M 準基1354			至 " "	
	自 " 焼津市 B. M 2569	" "	2	自 " "	
	至 " " 焼津験潮場固定点			至 " "	
	自 " 浜名郡舞浜町 B. M 舞阪検潮所球分体	" "	56	自 " "	
至 " 小笠郡大東町 B. M 2597			至 " "		
3-16	自 静岡県掛川市 B. M 140-1	B. M 140-1	35	自 平成3年4月	45
	至 " 榛原郡御前崎町 御前崎検潮所固定点			至 " "	
	自 " " 御前崎測候所水準標石	" "	2	自 " 5月	
	至 " " 御前崎測候所水管東補助点			至 " "	
	自 " 掛川市 B. M 140-1	" "	30	自 " 7月	
	至 " 榛原郡相良町 B. M 準基1354			至 " "	
	自 " 小笠郡浜岡町 B. M 旧2595	" "	11	自 " 5月	
	至 " 榛原郡御前崎町 御前崎検潮所標石			至 " "	
	自 " 榛原郡相良町 B. M 2594	" "	6	自 " 4月	
	至 " 榛原郡御前崎町 御前崎測候所水管固定点			至 " 5月	
	自 " 掛川市 B. M 140-1	" "	35	自 " 10月	
	至 " 榛原郡御前崎町 御前崎検潮所固定点			至 " 11月	
	自 " " 御前崎測候所水準標石	" "	2	自 " "	
	至 " " 御前崎測候所水管東補助点			至 " "	
	自 " 掛川市 B. M 140-1	" "	30	自 平成4年1月	
	至 " 榛原郡相良町 B. M 準基1354			至 " "	
	自 " 榛原郡御前崎町 御前崎測候所水準標石	" "	2	自 " "	
	至 " " 御前崎測候所水管東補助点			至 " "	

変動図 番号	検 測 区 間			不動とした水準点番号	キロ 数	検 測 期 間	頁
3-17	自	新潟県新潟市	B. M 4420	B. M 4420 建No.0	30	自 平成3年8月	49
	至	" 新津市	B. M II2163		自 " 9月		
	自	" 上越市	B. M 建No.0		14	自 " "	
	至	" "	B. M T-6		至 " "		
3-18	自	愛知県岡崎市	B. M 167	B. M 基38	56	自 平成3年9月	50
	至	" 引佐郡三ヶ日町	B. M 基38	至 " 10月			
3-19	自	岐阜県不破郡垂井町	B. M 191-2	B. M 附18	104	自 平成3年10月	51
	至	愛知県常滑市	B. M 附18	至 " 11月			
	自	" 名古屋市	B. M 交 172-1	" "	5	自 " 10月	
	至	" 豊明市	B. M 基39	至 " "			
	自	岐阜県羽島市	B. M 3357	" "	9	自 " 11月	
	至	" 羽島郡笠松町	B. M 184	至 " "			
	自	愛知県常滑市	B. M 附18	" "	0	自 " 10月	
	至	" "	鬼崎験潮場固定点	至 " "			
	自	" 海部郡弥富町	B. M 1471	" "	24	自 " 11月	
	至	" 名古屋市	B. M 交 174-1	至 " "			
	自	岐阜県不破郡垂井町	B. M 191-2	" "	104	自 " 10月	
	至	三重県鈴鹿市	B. M 1453	至 " 11月			
自	岐阜県大垣市	B. M 4674	" "	4	自 " 10月		
至	" 養老郡養老町	B. M 4676	至 " 11月				
3-20	自	福井県福井市	B. M 交5258	B. M 交5258	193	自 平成3年7月	55
	至	" 益田郡金山町	B. M 743	至 " "			
	自	" 大野郡久々野町	B. M 777	" "	72	自 " "	
	至	" 益田郡金山町	B. M 743	至 " "			
	自	" 大野郡朝日村	B. M 993	" 交 627	92	自 " 6月	
	至	長野県塩尻市	B. M 交 627	至 " 7月			
	自	" "	B. M 交 627	" "	17	自 " "	
至	" 松本市	B. M 交2873	至 " "				

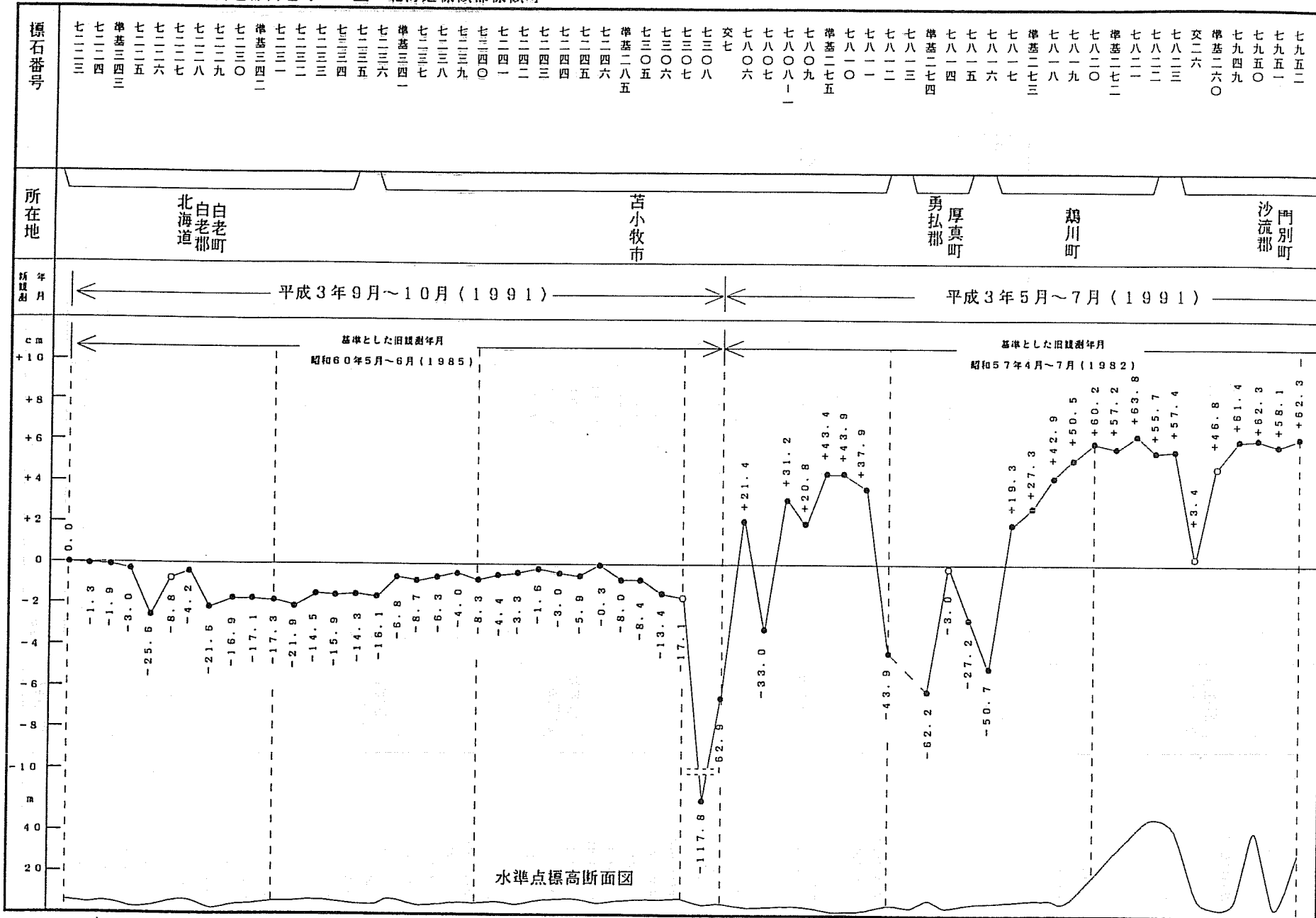
変動図 番号	検 測 区 間	不動とした水準点番号	キ ロ 数	検 測 期 間	頁	
3-21	自 石川県河北郡津幡町	B. M 交11	B. M 交11	78	自 平成3年8月	60
	至 福井県坂井郡金津町	B. M 基15			至 " 9月	
	自 石川県河北郡津幡町	B. M 基16	" 基16	118	自 " 6月	
	至 岐阜県大野郡久々野町	B. M 777			至 " 8月	
	自 " 高山市	B. M 交 784	" "	14	自 " 6月	
	至 " 大野郡朝日村	B. M 993			至 " "	
3-22	自 兵庫県西宮市	B. M 交 460	B. M 基20	96	自 平成3年10月	63
	至 滋賀県大津市	B. M 基20			至 " 11月	
	自 大阪府茨木市	B. M 226	" "	8	自 " 10月	
	至 " "	B. M 基21			至 " "	
	自 京都府京都市	B. M 1296	" "	11	自 平成4年1月	
	至 " "	B. M 交 216			至 " 2月	
	自 大阪府大阪市	B. M 交 229	" 交 229	58	自 平成3年10月	
	至 " 泉南郡阪南町	B. M 264			至 " 11月	
	自 " 堺市	B. M 交 246	" "	19	自 " 10月	
至 " 柏原市	B. M 国分原標			至 " 11月		
3-23	自 香川県坂出市	B. M 交 354	B. M 交 354	106	自 平成3年9月	66
	至 徳島県鳴門市	B. M 交5066			至 " 10月	
	自 香川県丸亀市	B. M 交3385	" "	13	自 " 9月	
	至 " 坂出市	B. M 交 354			至 " "	
	自 高知県高知市	B. M 交5004	" 交5004	19	自 " 9月	
	至 徳島県阿南市	B. M 5090			至 " 10月	
	自 " "	B. M 5090	" "	51	自 " "	
	至 " 鳴門市	B. M 交5066			至 " 10月	

変動図 番 号	検 測 区 間	不動とした水準点番号	キ ロ 数	検 測 期 間	頁	
3-24	自 佐賀県杵島郡有明町	B. M 基52	B. M 基52	49	自 平成4年1月	71
	至 福岡県柳川市	B. M 3356			至 " 2月	
	自 佐賀県佐賀郡大和町	佐賀県基盤水準点	" "	2	自 平成4年1月	
	至 " 佐賀市	B. M 3346			至 " 2月	
	自 " 鹿島市	B. M 3331	" "	2	自 平成4年1月	
	至 " 杵島郡有明町	B. M 3332			至 " 2月	
	自 " " "	B. M "	" 3332	44	自 " 1月	
	至 " 佐賀郡諸富町	B. M 3350			至 " 2月	
	自 " 小城郡芦刈町	B. M 2000	" "	4	自 " 1月	
至 " 佐賀郡久保田町	B. M 3342			至 " 2月		
3-25	自 大分県大分市	B. M 交1935	B. M 交1935	15	自 平成3年8月	73
	至 " "	B. M 交2633			至 " "	
	自 " "	B. M 交2633	" "	14	自 " 9月	
	至 " 北海部郡佐賀関町	B. M 5379			至 " "	
	自 " 大分市	B. M 交2633	" "	3	自 " "	
至 " "	B. M 基47			至 " "		
3-26	自 沖縄県国頭郡国頭村	B. M 9709	B. M 9709	19	自 平成3年7月	74
	至 " "	B. M 9713			至 " "	
3-27	自 沖縄県八重山郡竹富町	B. M 11237	B. M 11237	31	自 平成3年5月	75
	至 " "	B. M 11264			至 " 6	

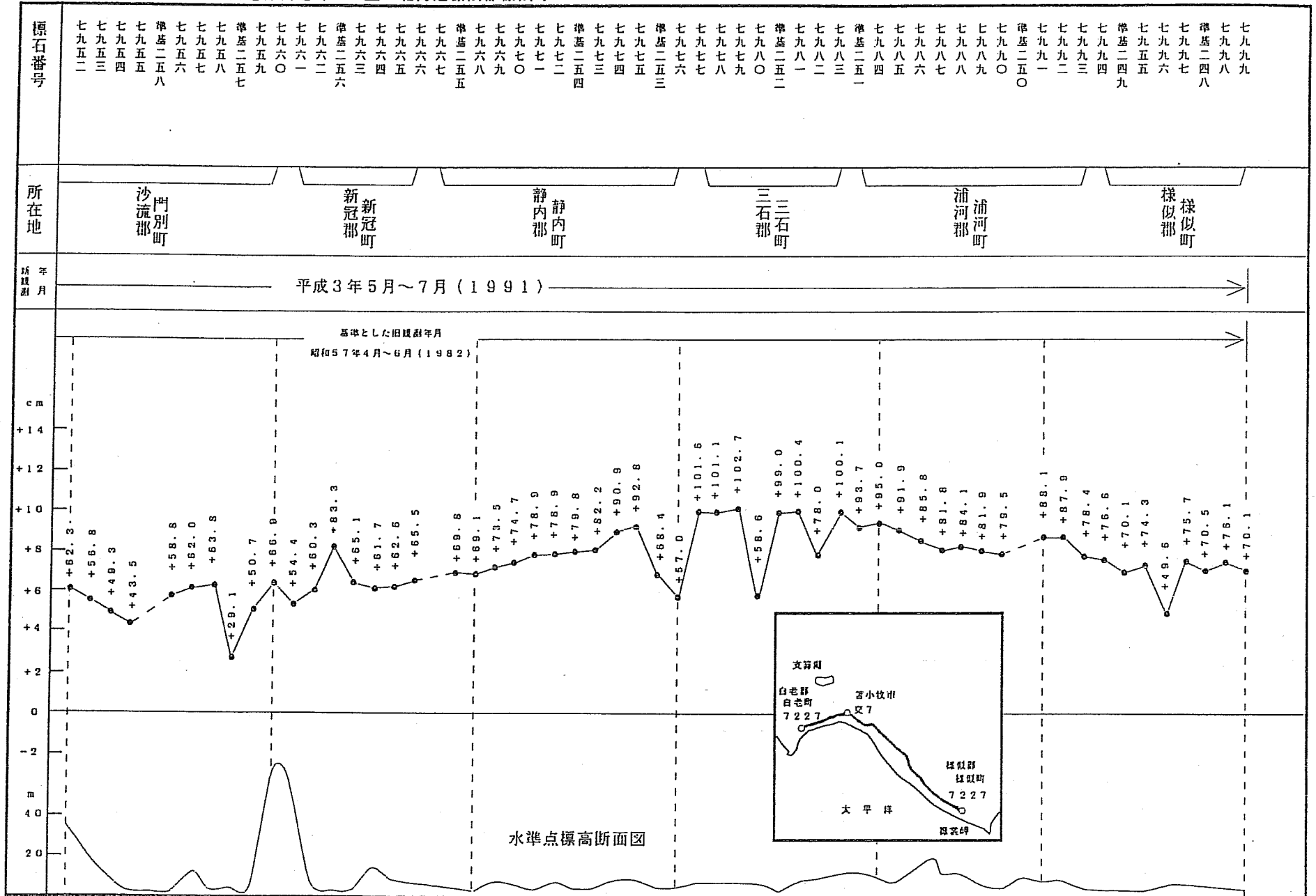
3. 水準点変動図の説明

- (1) 変動量はすべて水準点間の新観測比高から、旧観測比高を減じた値を、仮不動点を基準にして累加したものである。
- (2) 変動図中、再設、傾斜改埋等のため比較不能のものについては、点線で示し、それらが図の両端にあるときは空白とした。
- (3) 前回観測から今回観測の間に移転改埋をした点は白ぬきで表示した。
- (4) 昭和39年度から、建設省道路局長と国土地理院長との覚書により、道路管理者の設けた地点標の1 km毎に、併設した一等水準点（道路水準点）には、001-181のような番号をつけている。

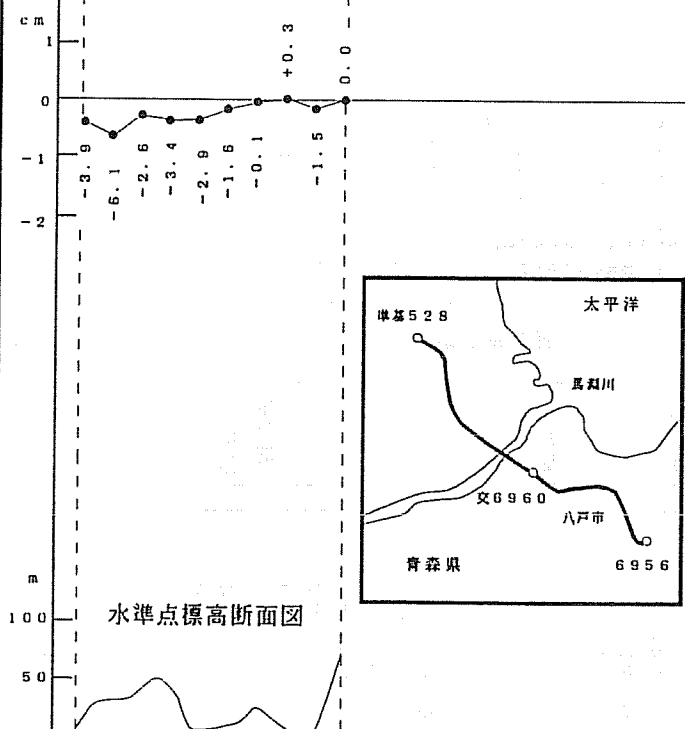
3-1-I 自 北海道白老郡白老町 至 北海道様似郡様似町

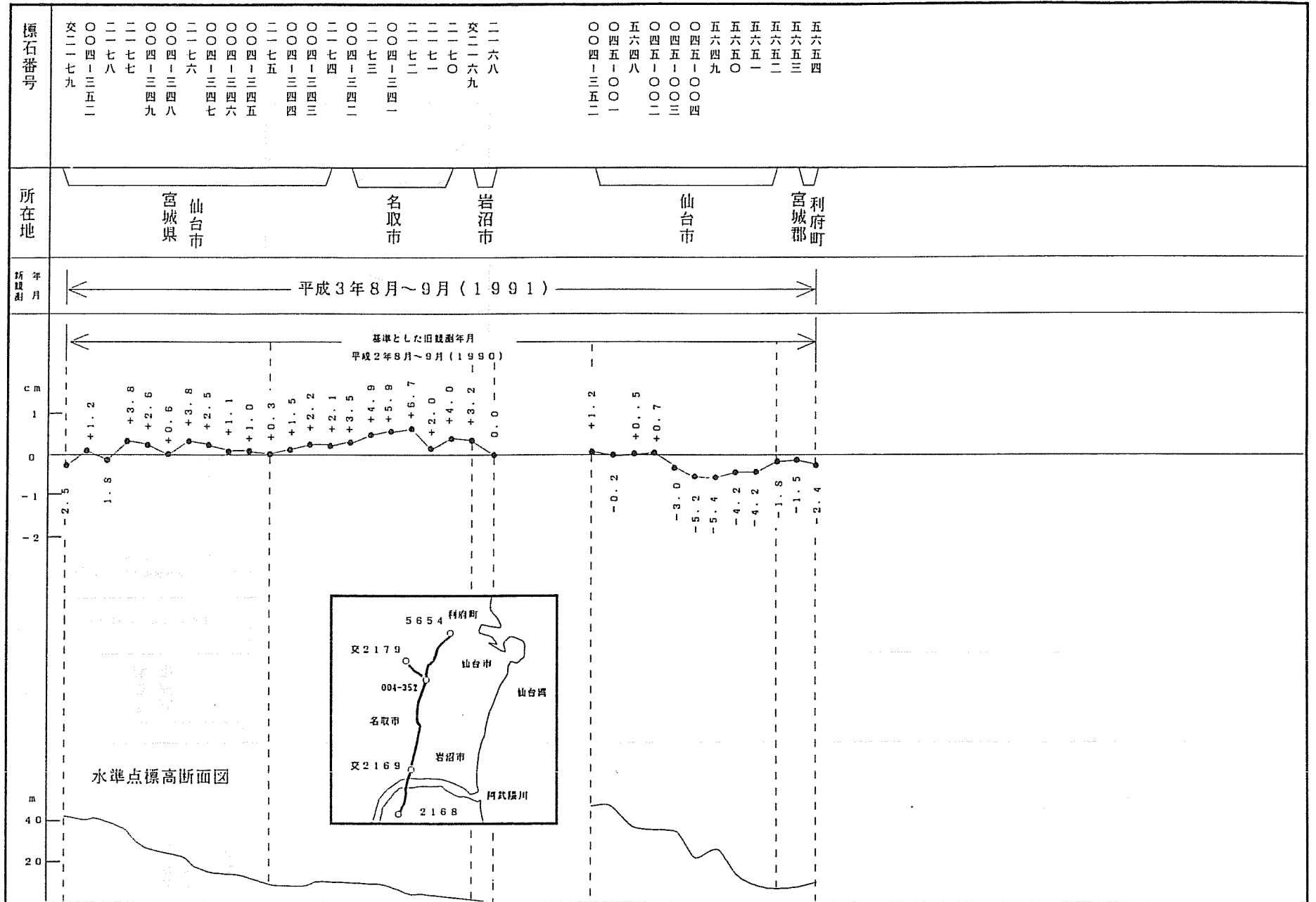


3-1-I 自 北海道白老郡白老町 至 北海道様似郡様似町

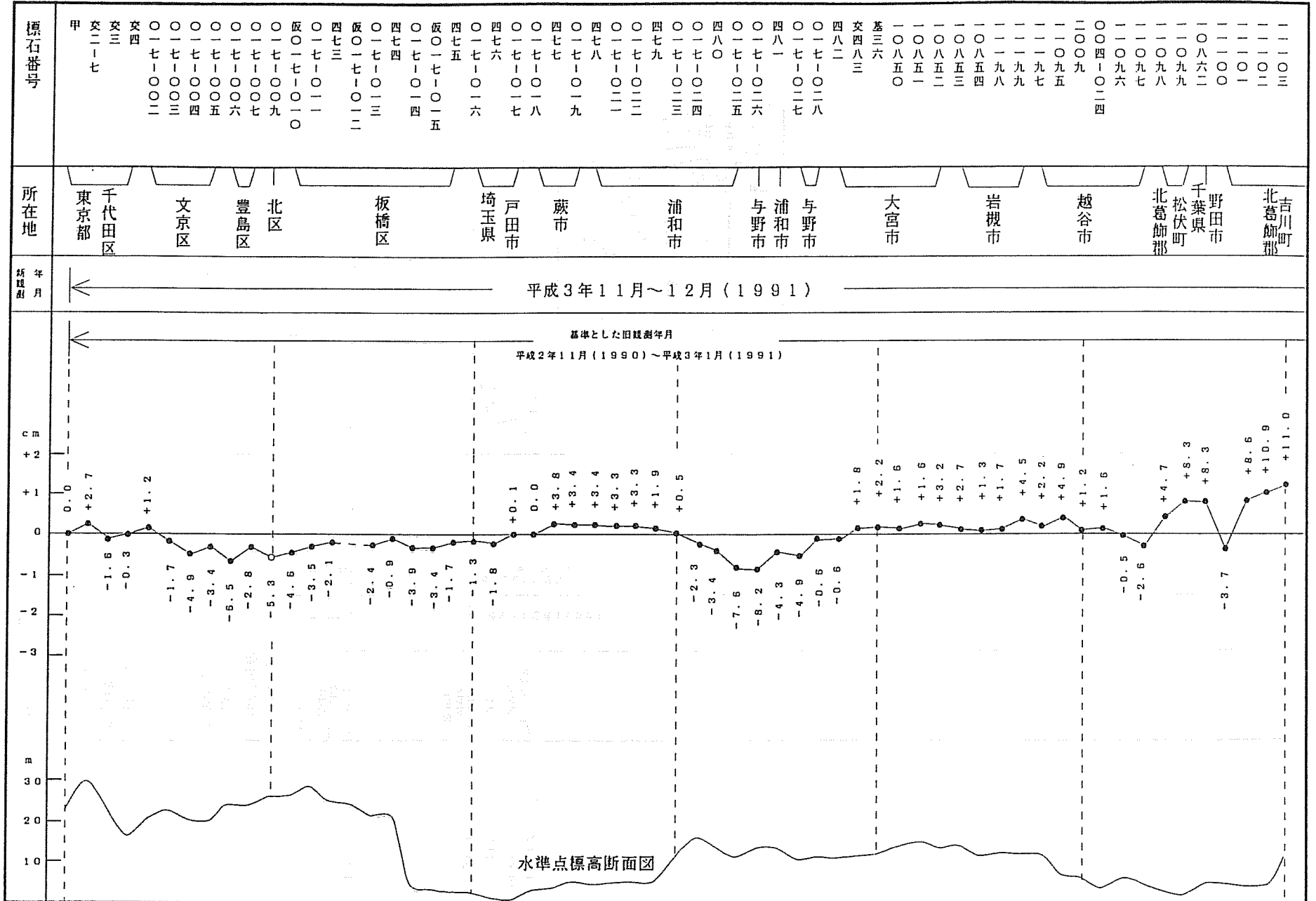


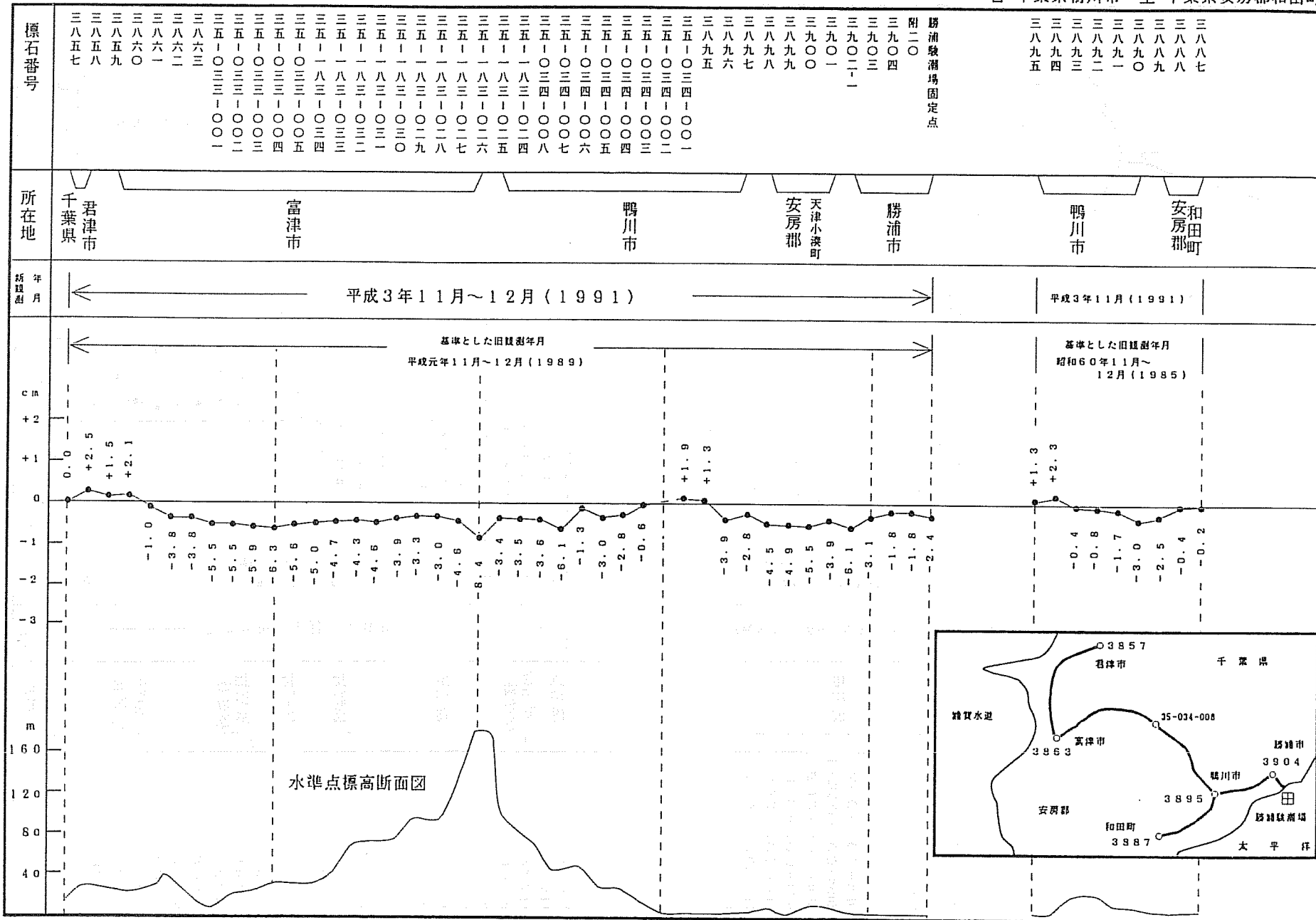
3-3 青森県八戸市

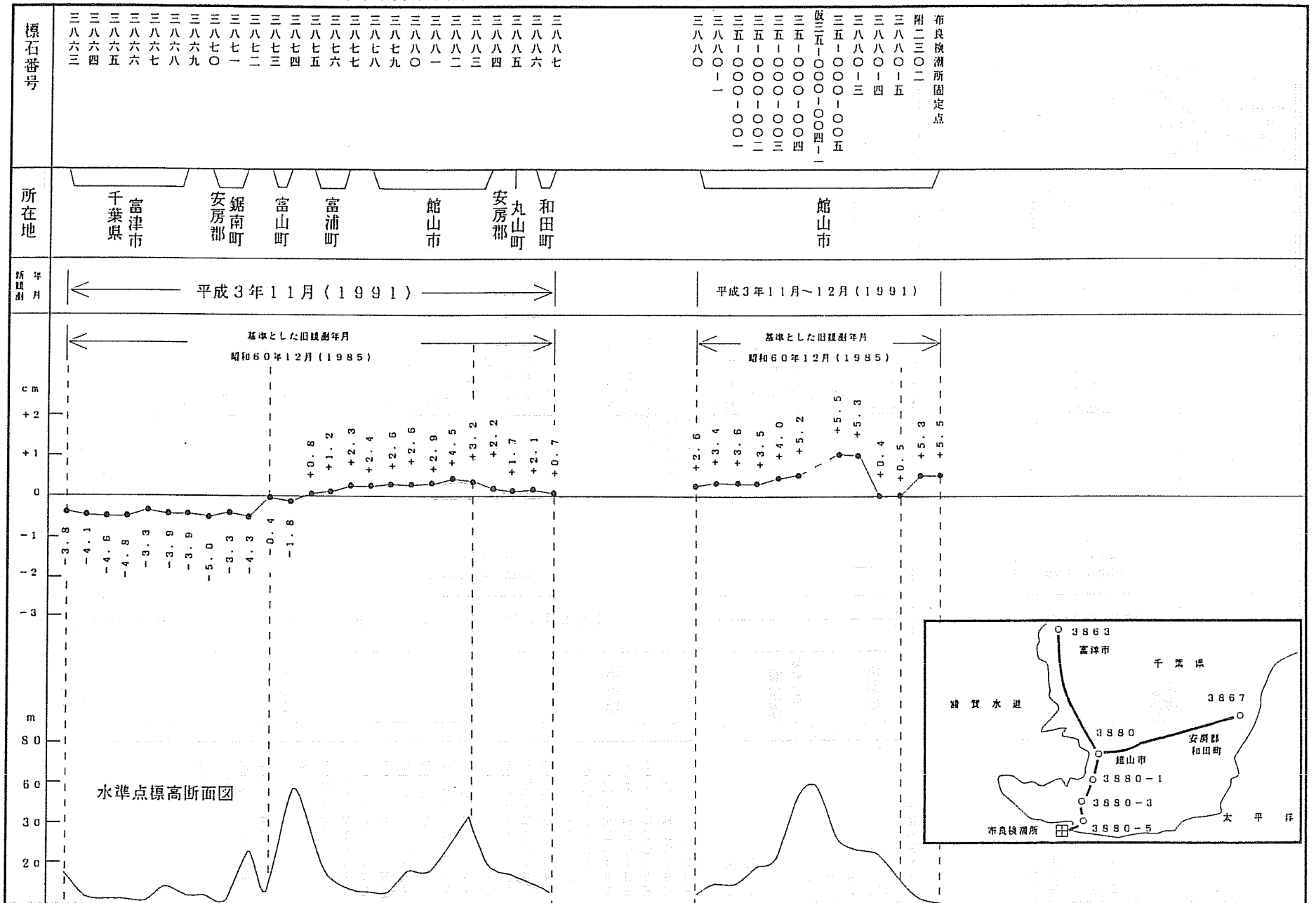
標石番号 六九五六 六九五七 六九五八 六九五九 交六九六〇 六一八一 六一八二 六一八三 六一八四 準基五二八	
所在地	青森県 八戸市
新設年月	平成3年10月(1991)
水準点標高断面図 cm 1 0 -1 -2 m 100 50	<div data-bbox="294 597 567 650" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 基準とした旧観測年月 平成2年9月(1990) </div>  <p>水準点標高断面図</p> <p>太平洋 馬利川 八戸市 青森県 基準528 交6960 6956</p>



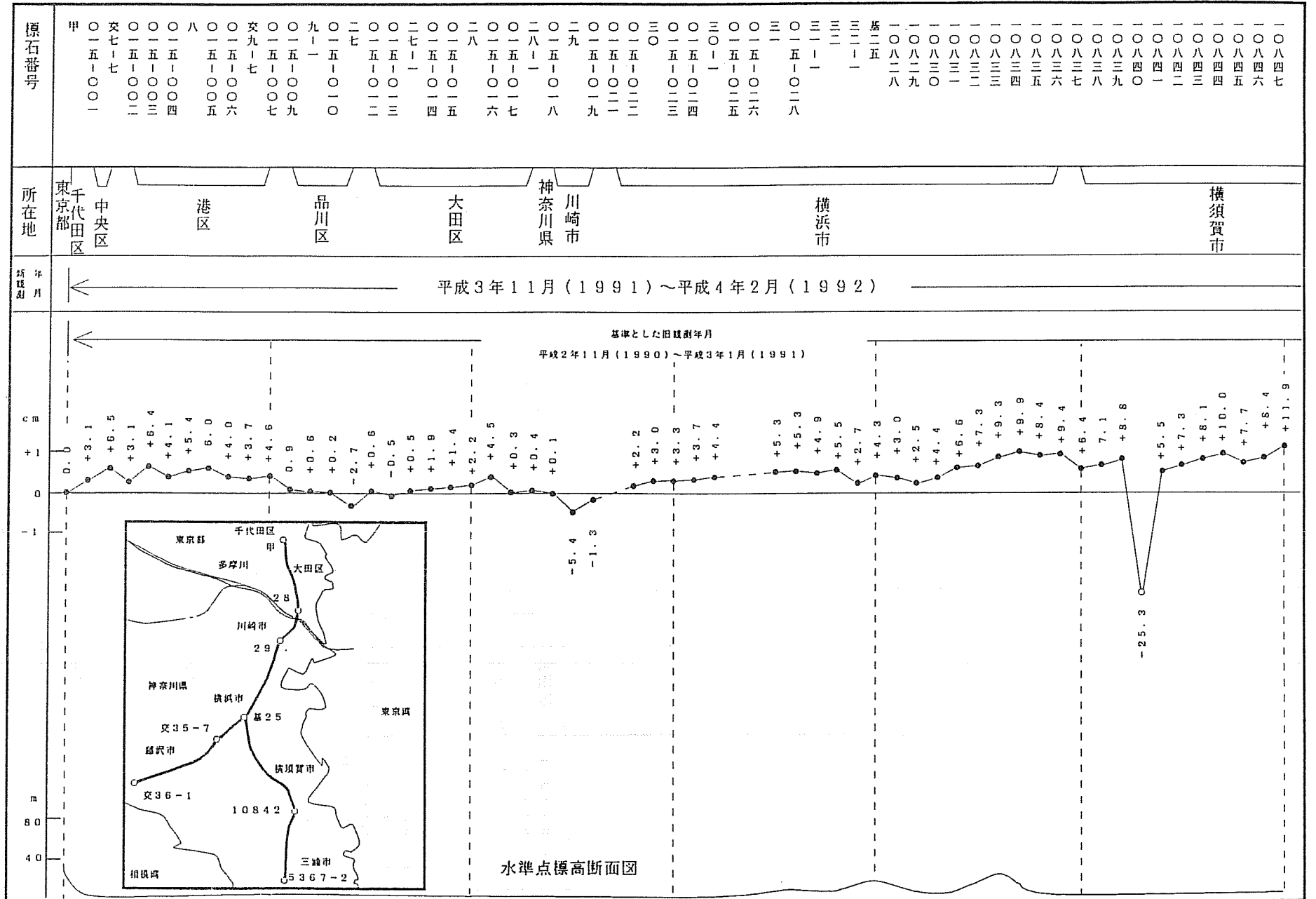
3-6 自 東京都千代田区 至 千葉県船橋市



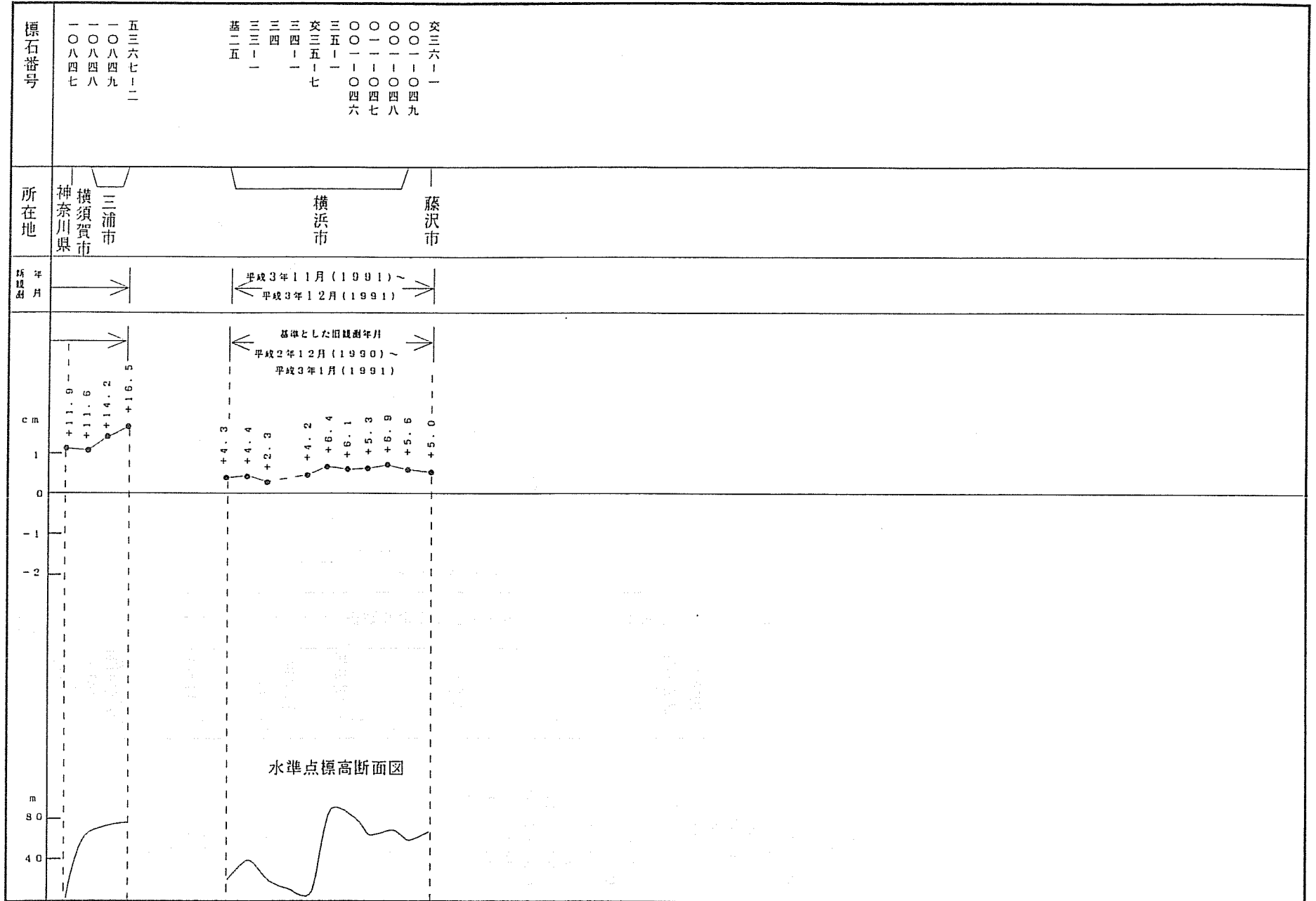




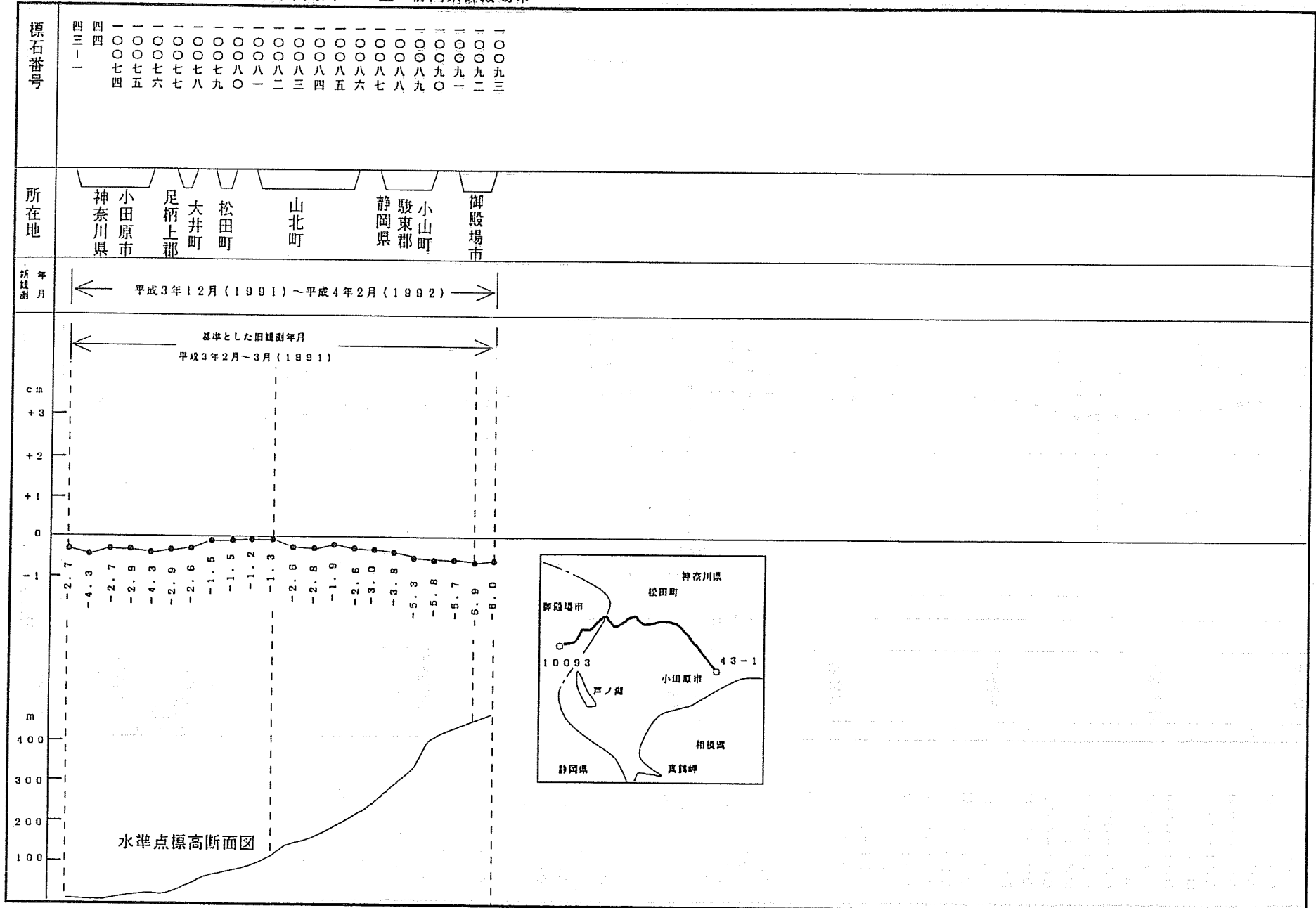
3-10 自 東京都千代田区 至 神奈川県三浦市



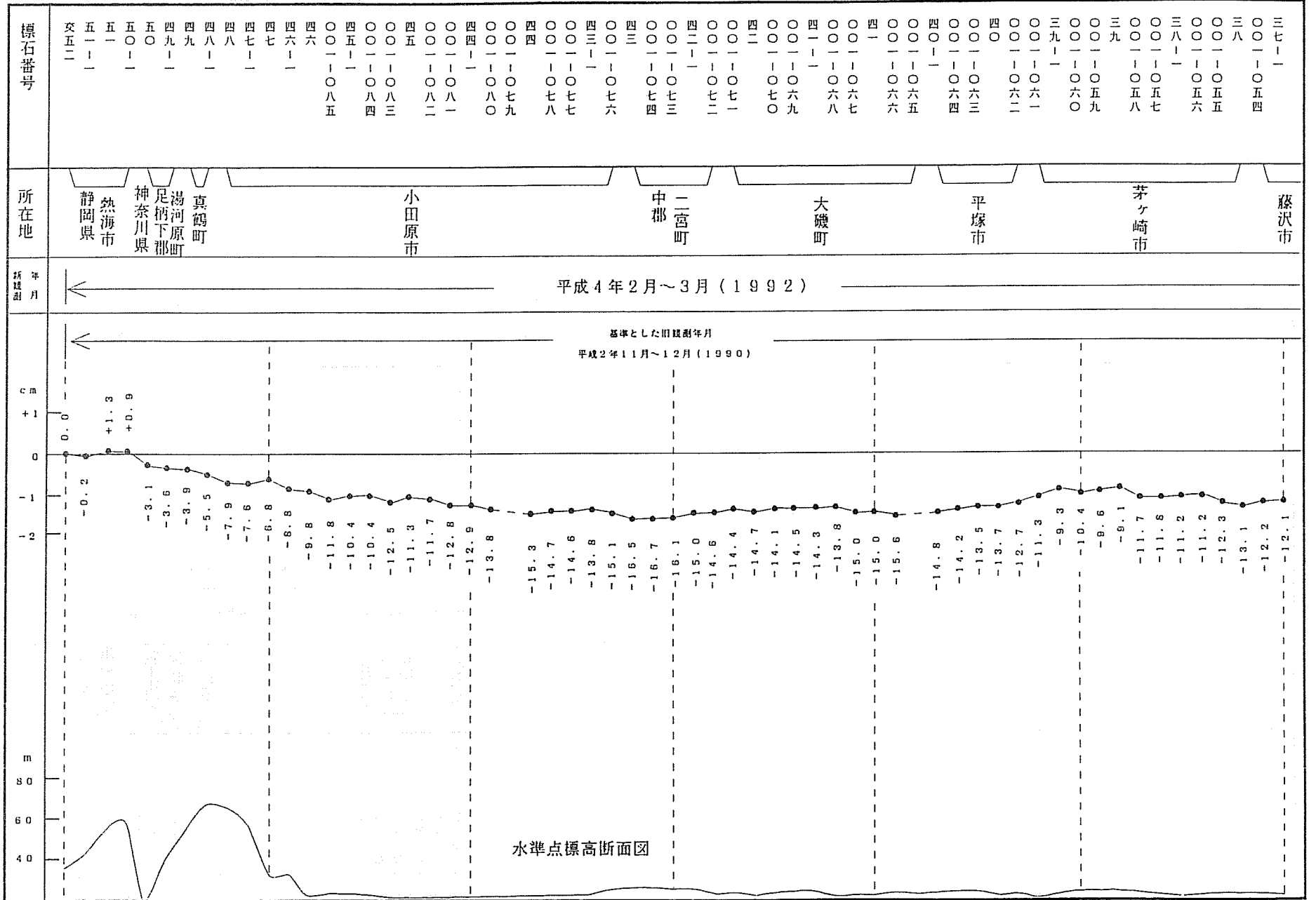
自 神奈川県横浜市 至 神奈川県藤沢市

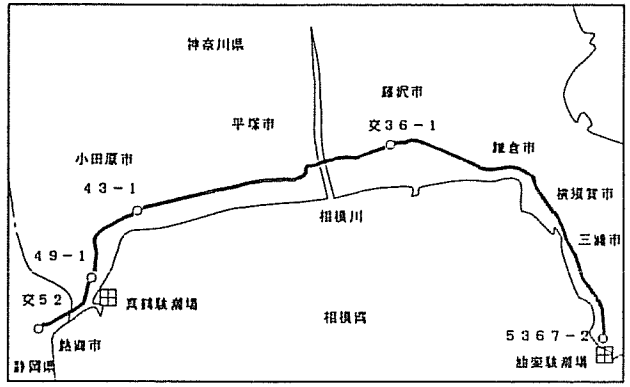
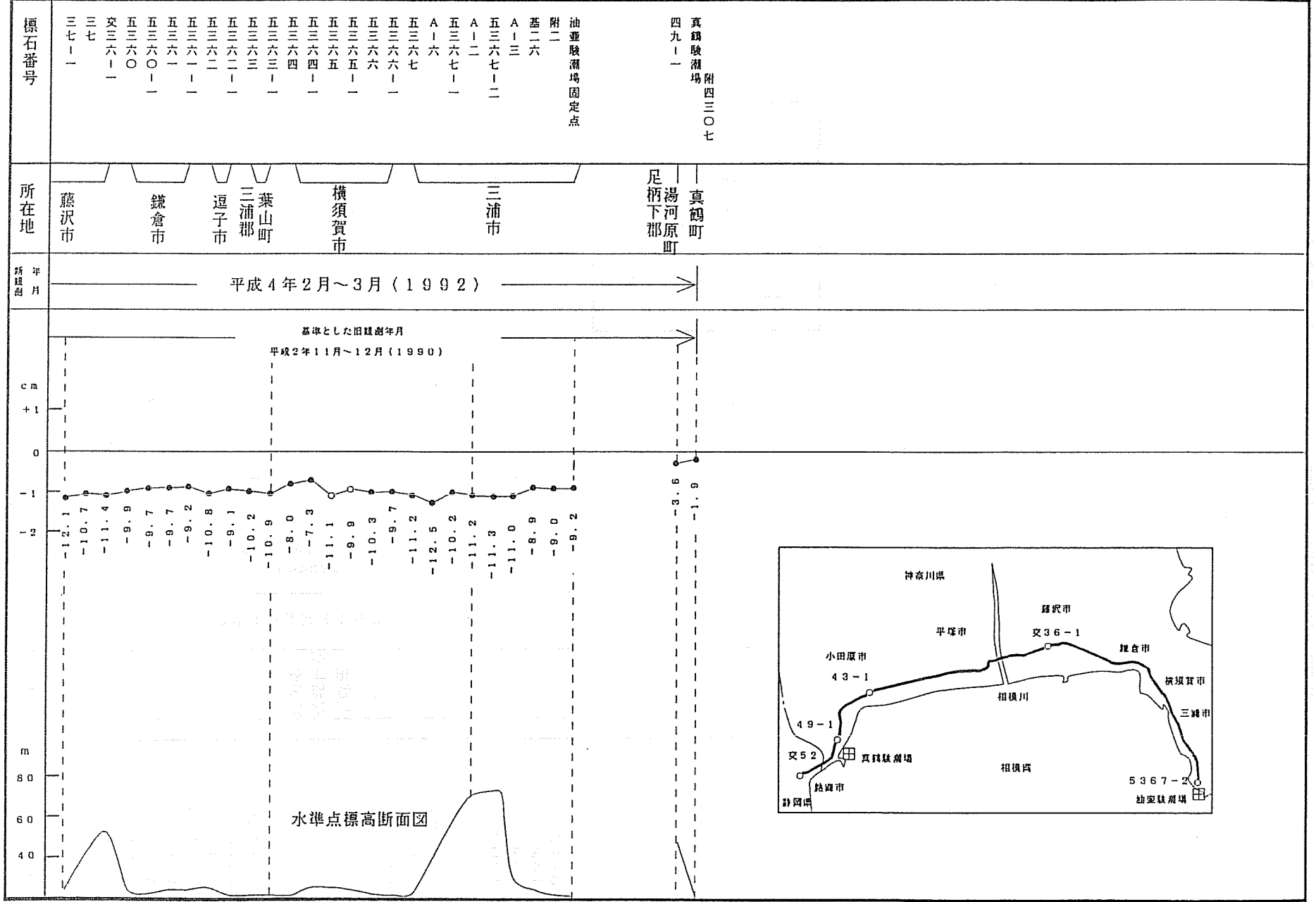


3-11-II 自 神奈川県小田原市 至 静岡県御殿場市



3-12 自 静岡県熱海市 至 神奈川県三浦市



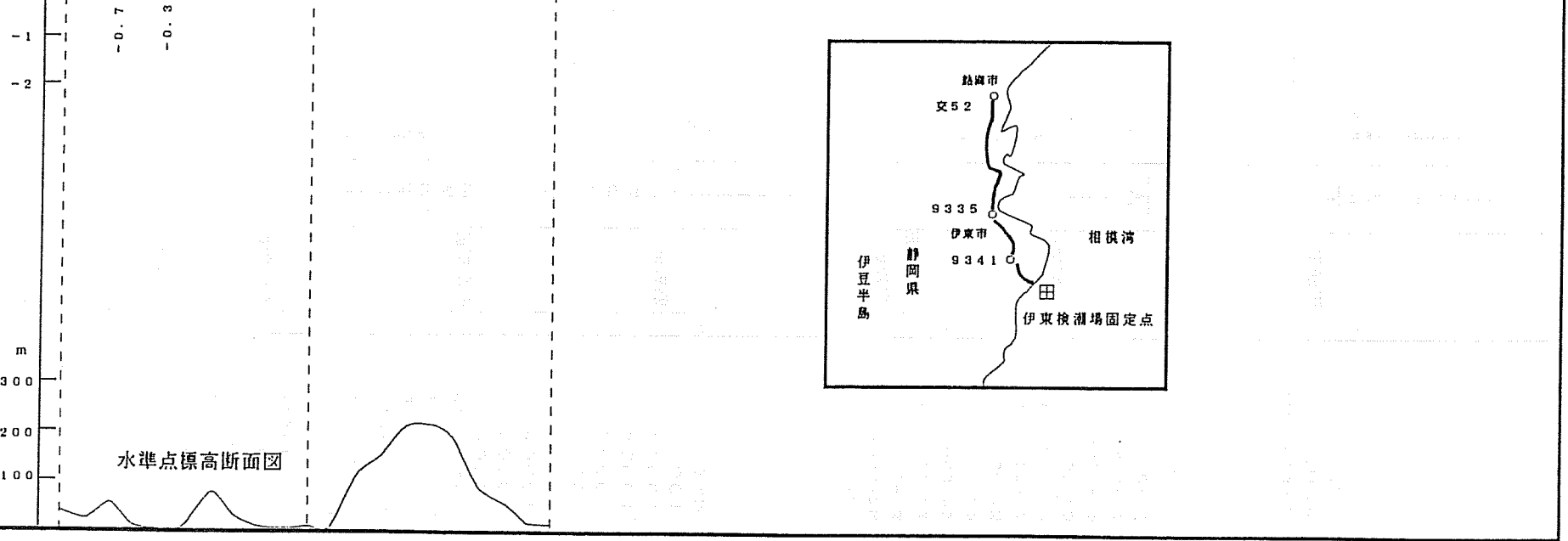
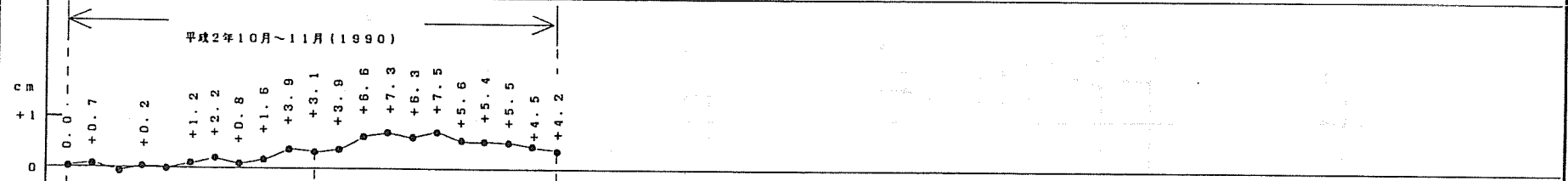


3-14-I 自 静岡県熱海市 至 静岡県伊東市

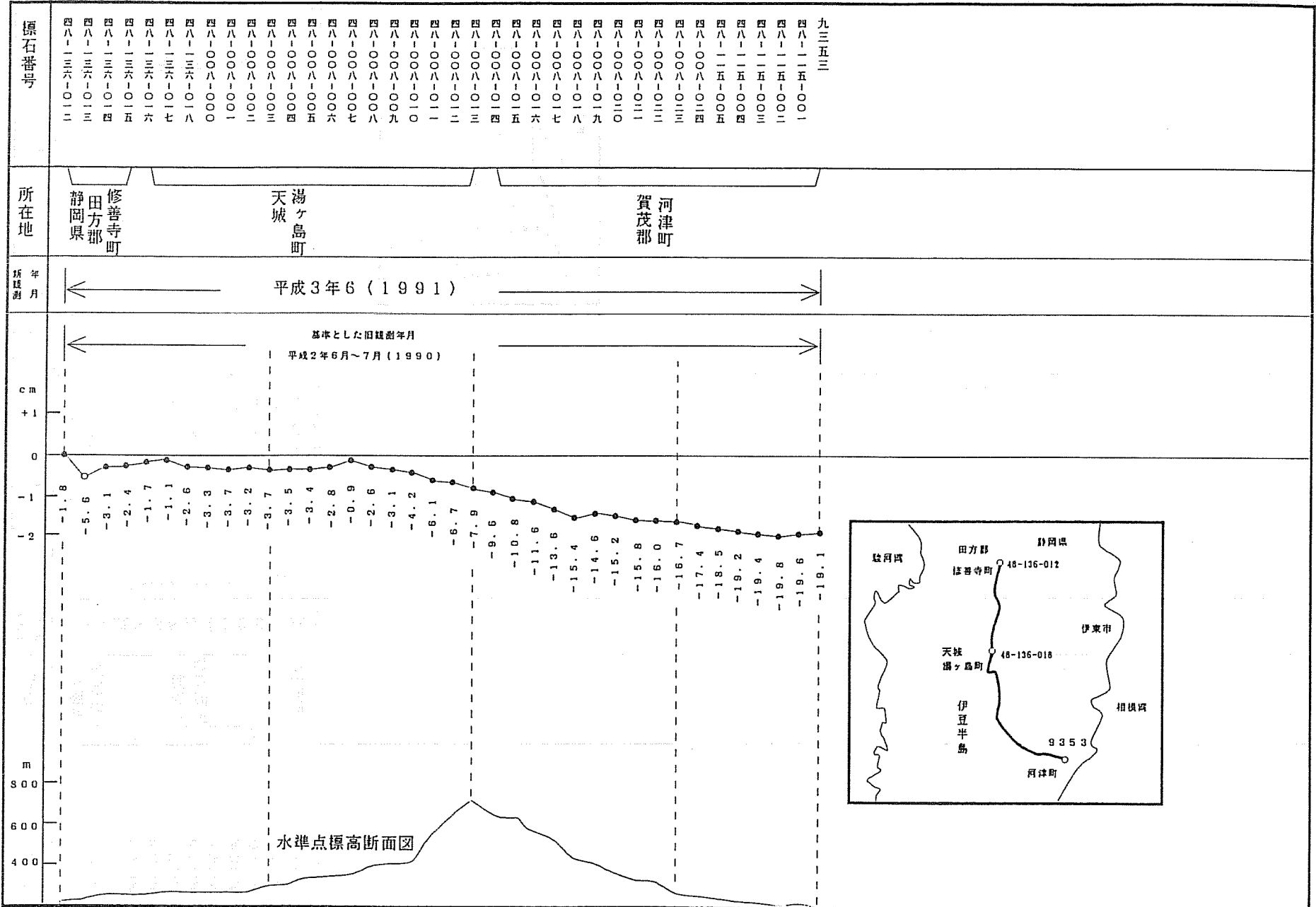
標石番号	交五二 五二一 九三二 九三八 九三九 九三〇 九三一 九三二 九三三 九三四 四八〇〇三 四八〇〇四 九三三 九三六 九三七 九三八 九三九 九四〇 九四一 九四二 附三八 伊東験潮場固定点
------	---

所在地	静岡県熱海市 伊東市
-----	---------------

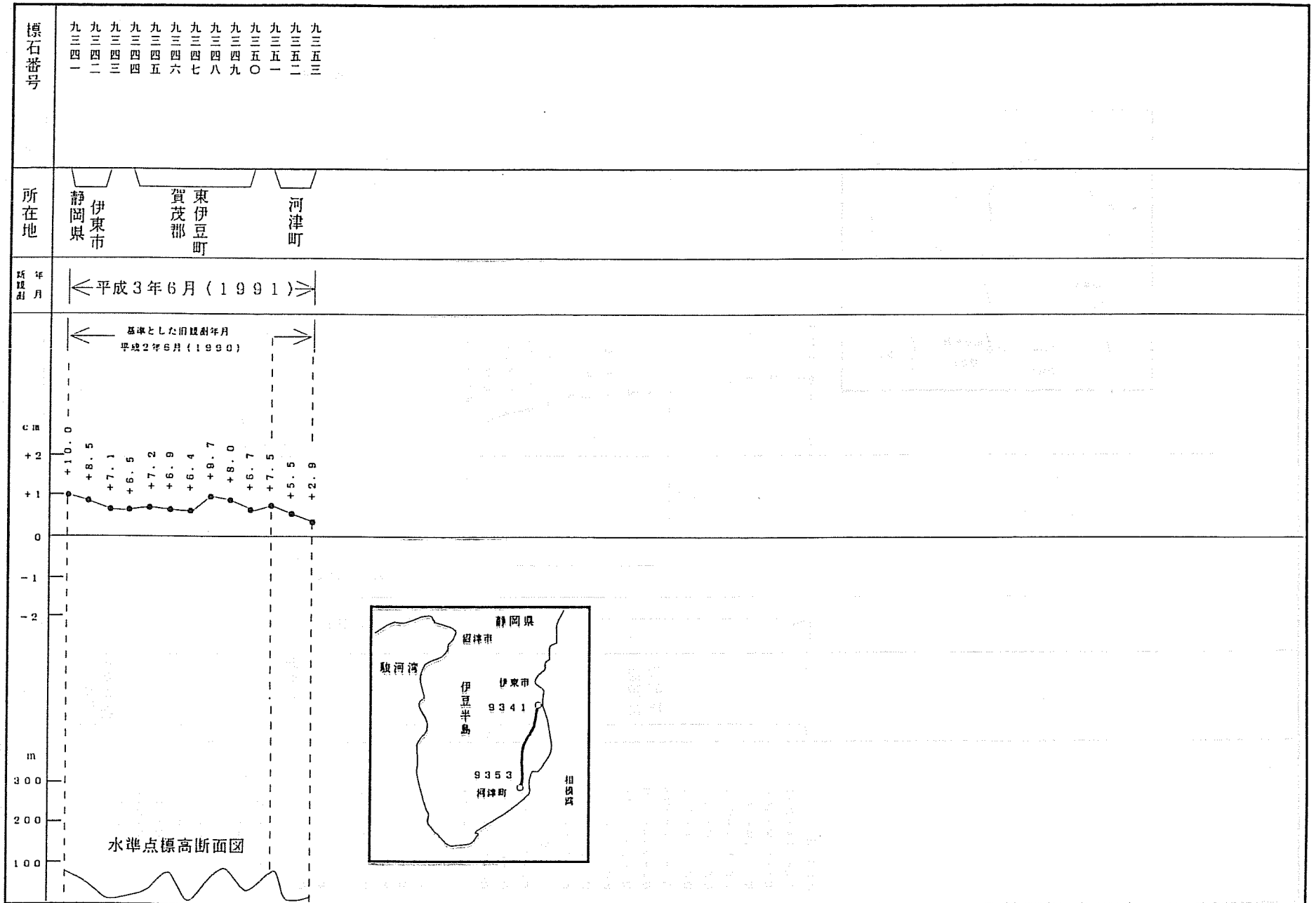
新設期 年月
平成3年6月(1991)



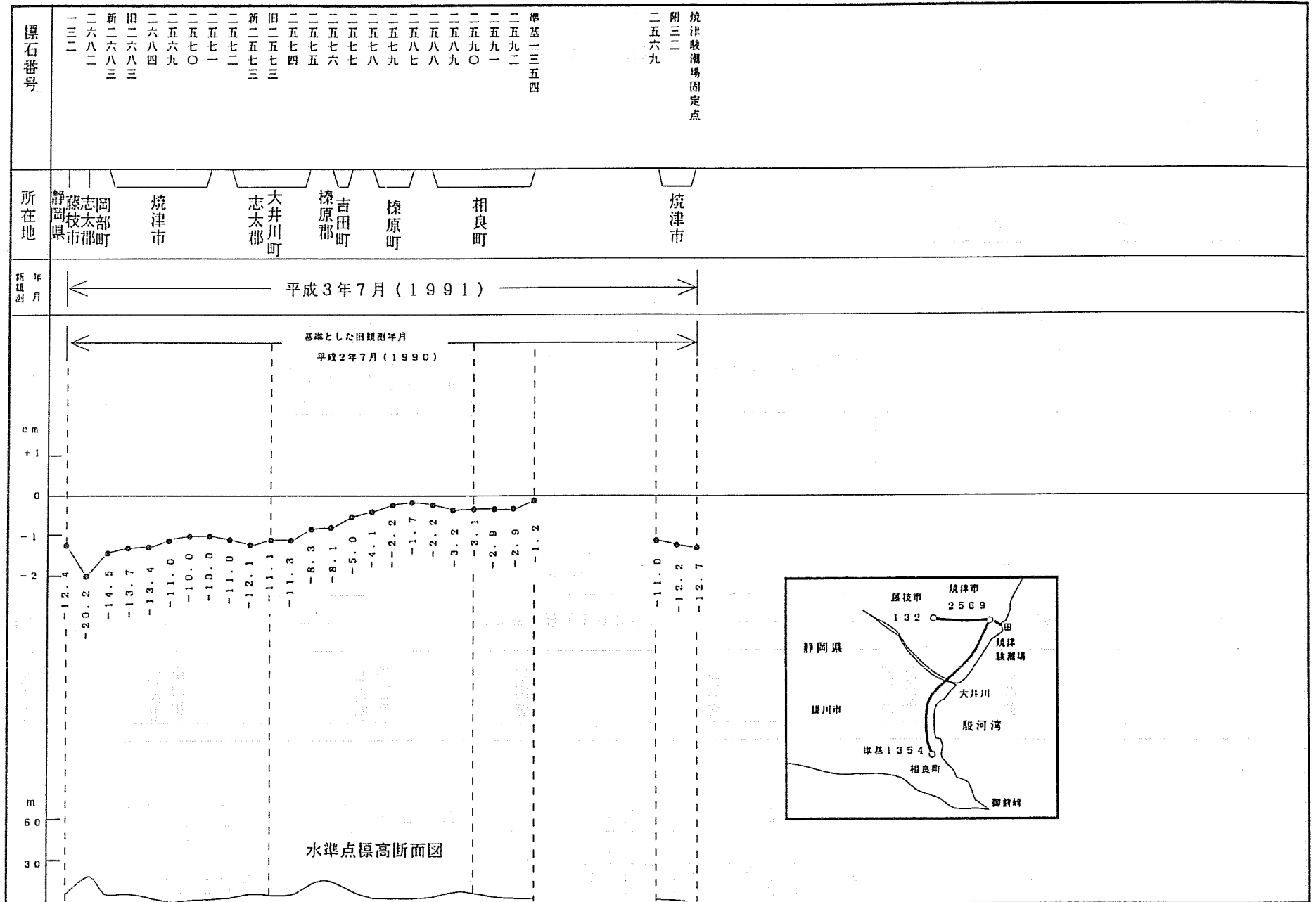
3-14-III 自 静岡県田方郡市修善寺町 至 静岡県賀茂郡河津町



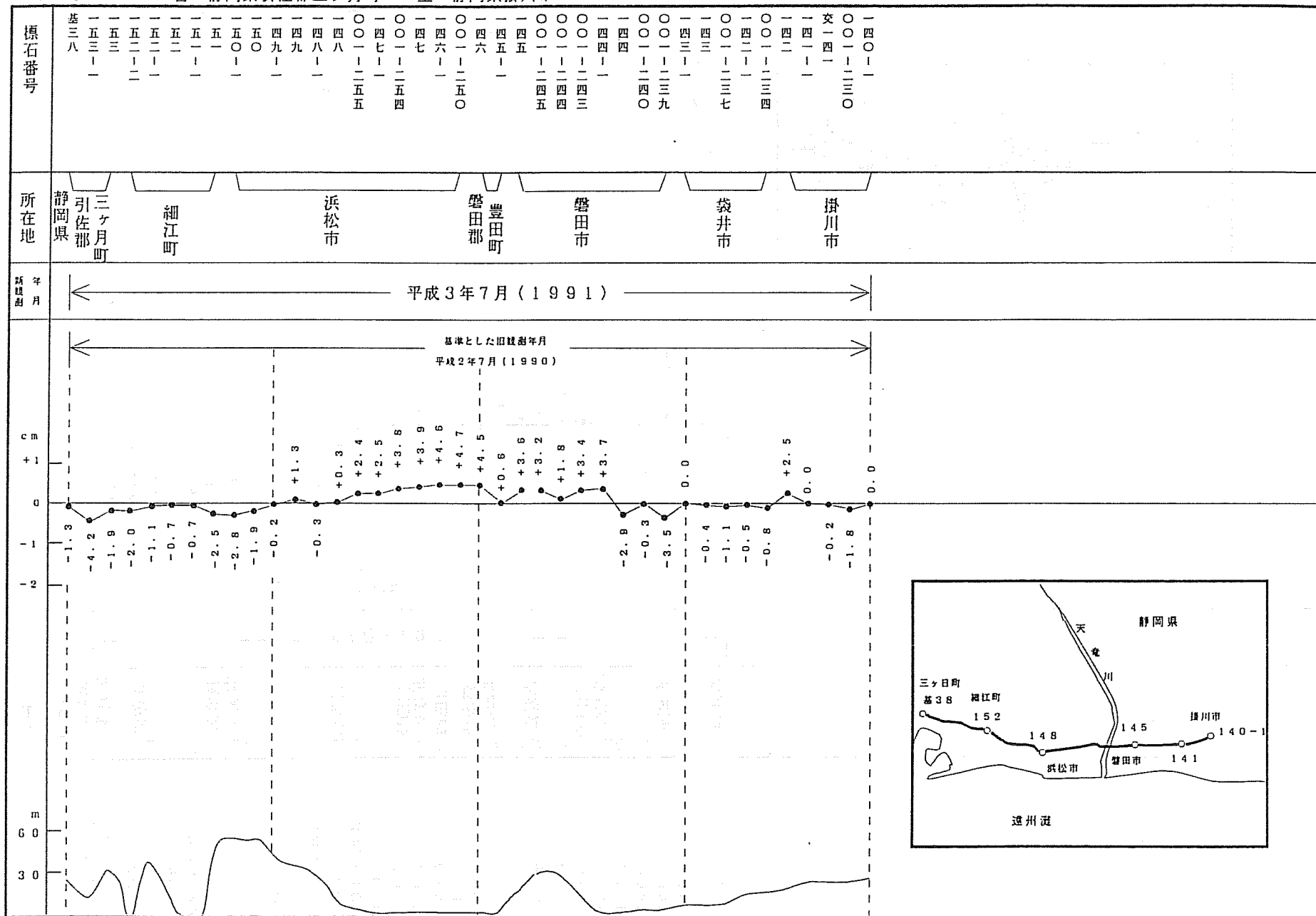
3-14-IV 自 静岡県伊東市 至 静岡県賀茂郡河津町



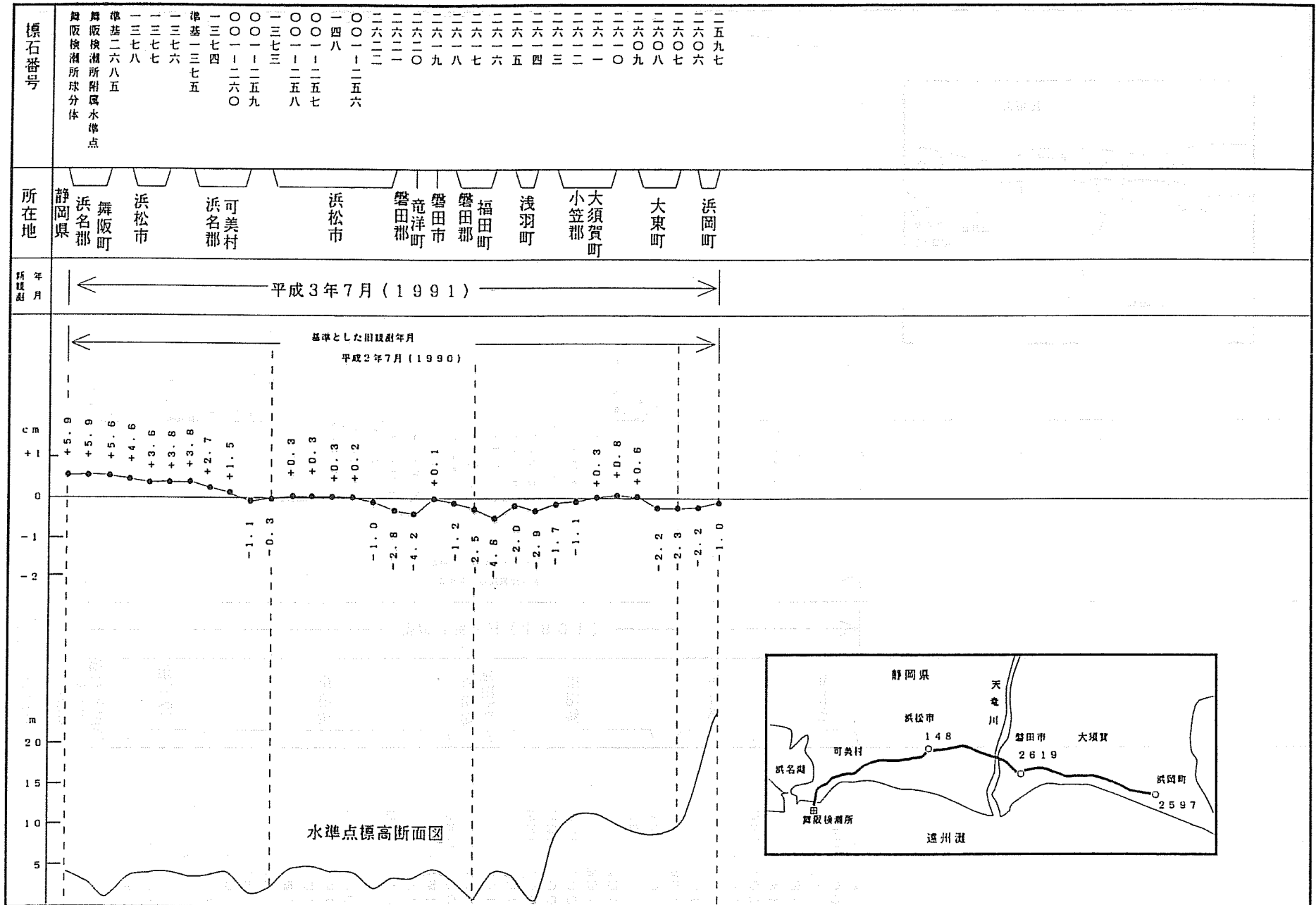
3-15-II 自 静岡県藤枝市 至 静岡県榛原郡相良町 静岡県焼津市



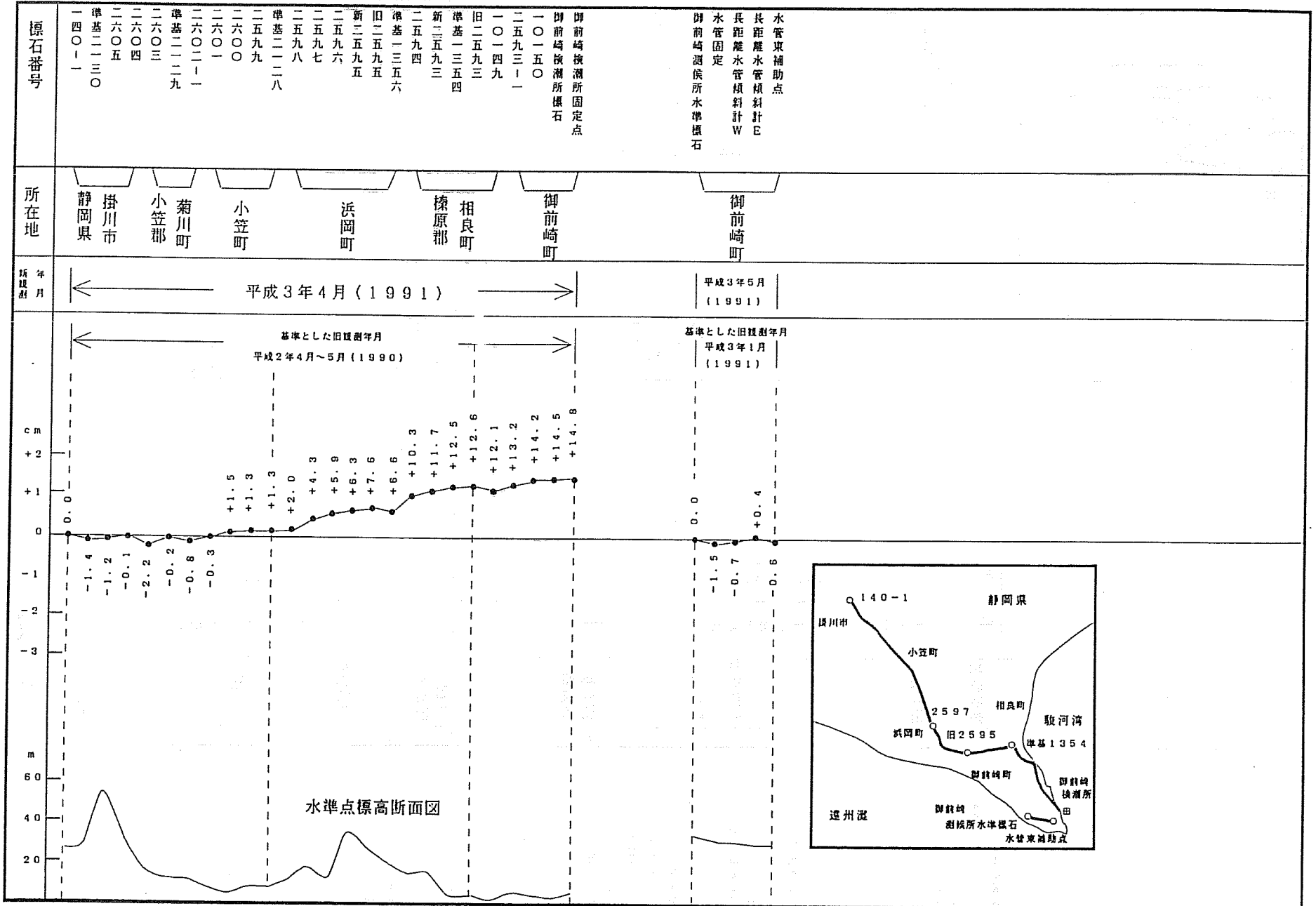
3-15-II 自 静岡県引佐郡三ヶ月町 至 静岡県掛川市



3-15-III 自 静岡県浜名郡舞阪町 至 静岡県小笠郡浜岡町

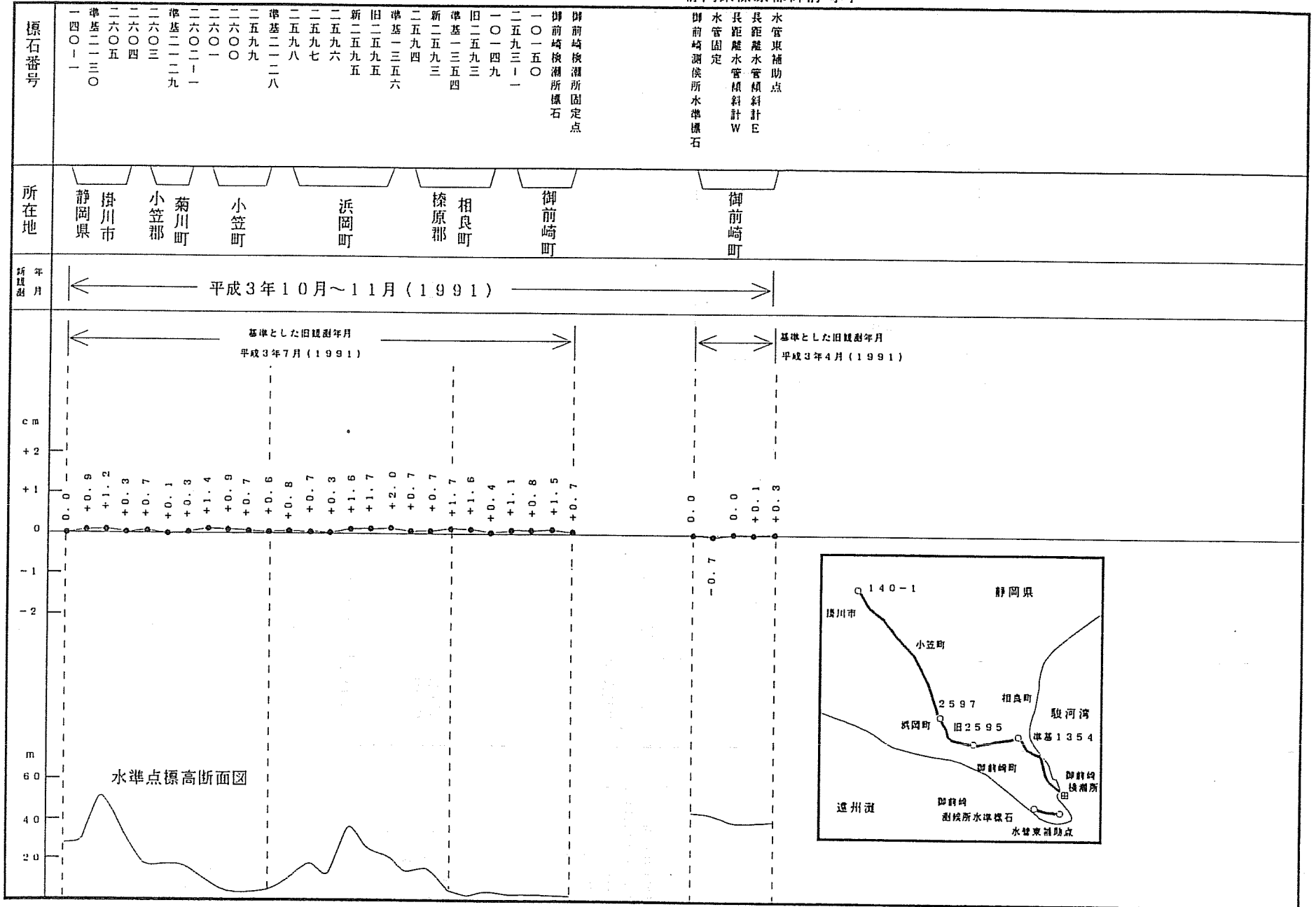


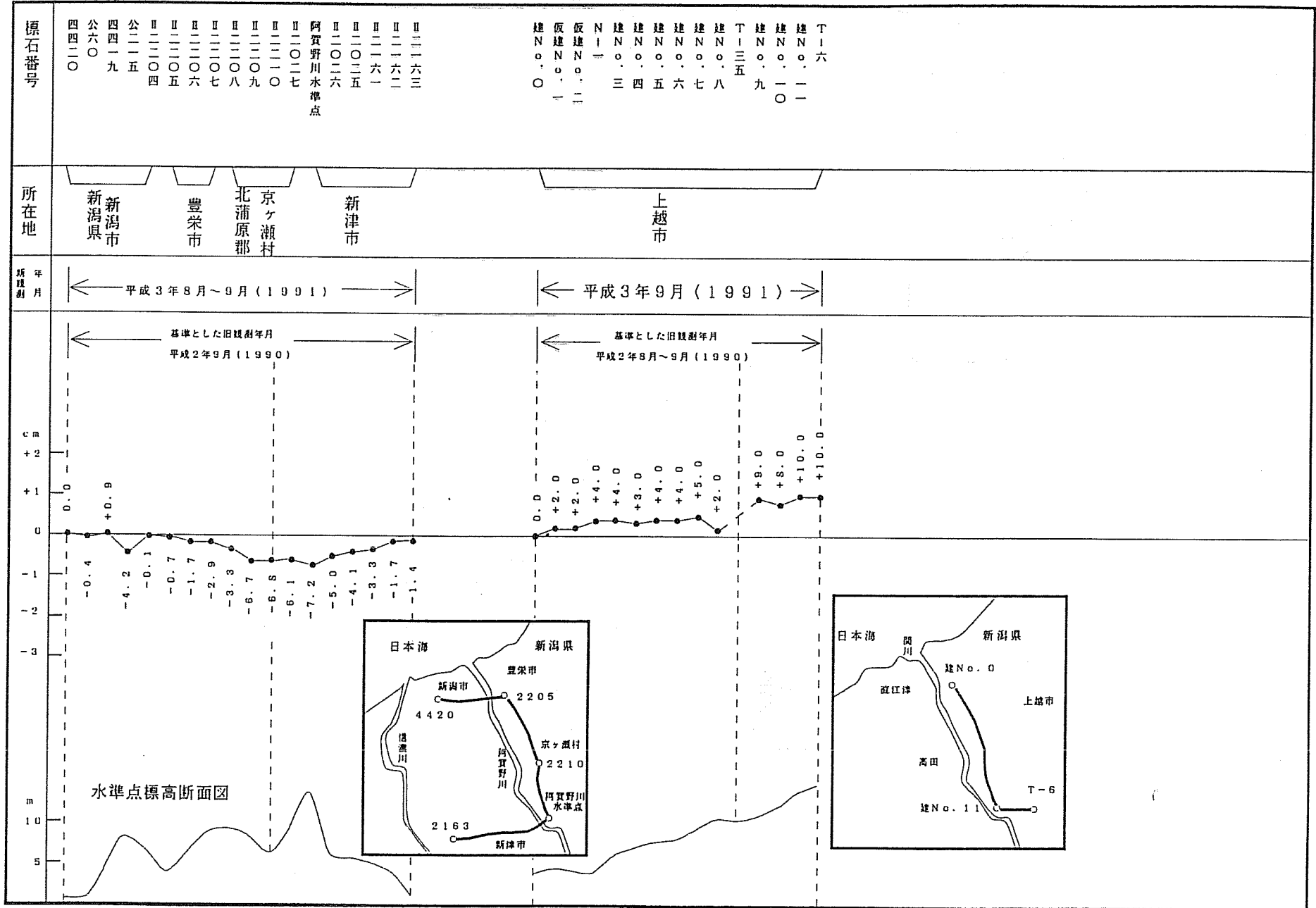
3-16-I 自 静岡県掛川市 至 静岡県椋原郡御前崎町



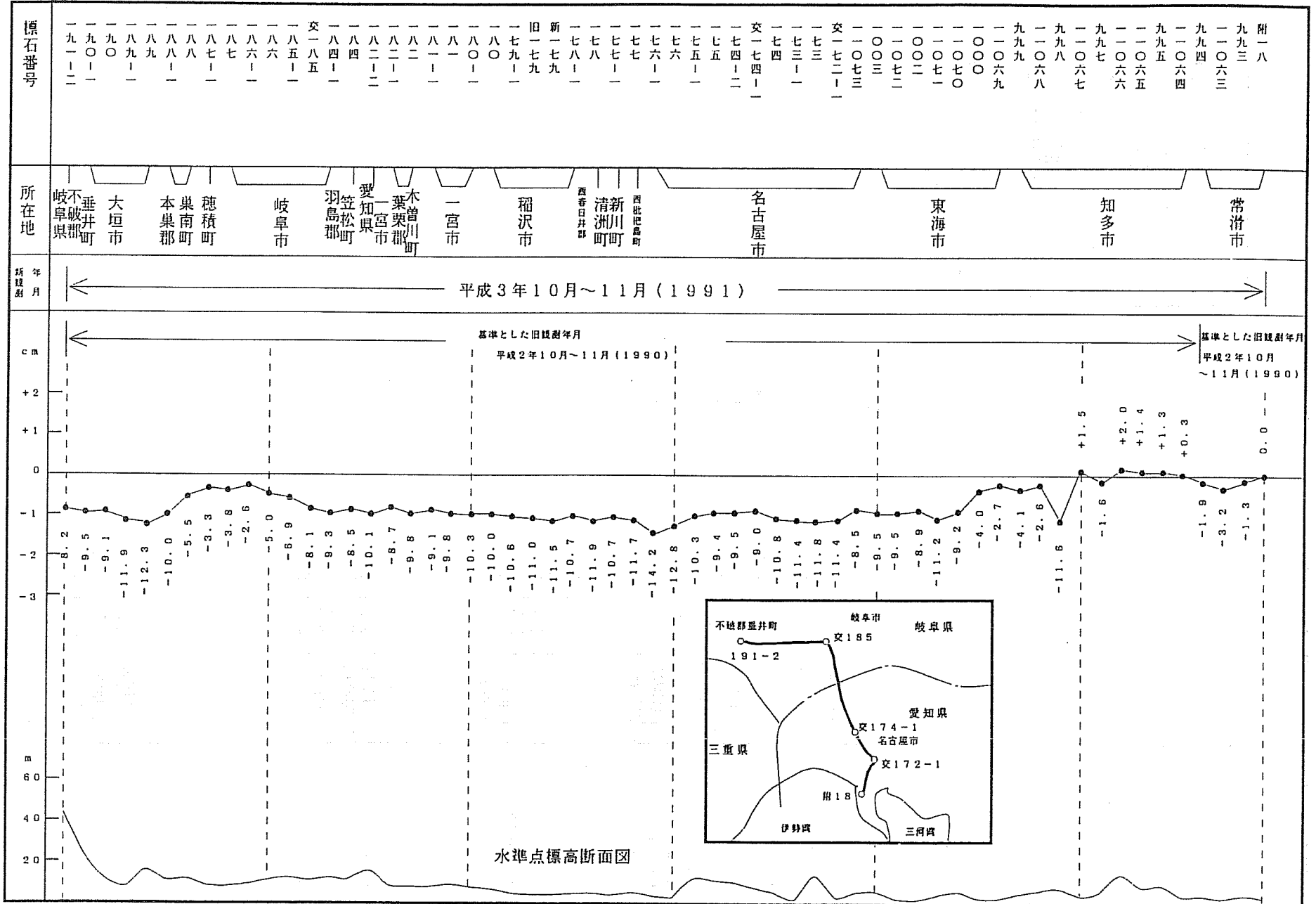
3-16-III 自 静岡県掛川市 至 静岡県榛原郡御前崎町

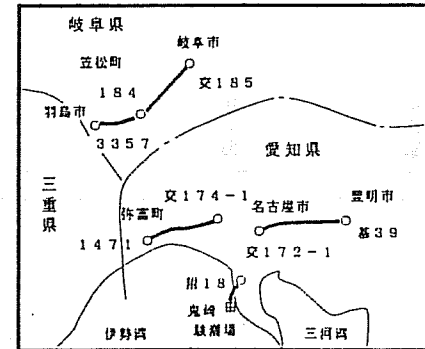
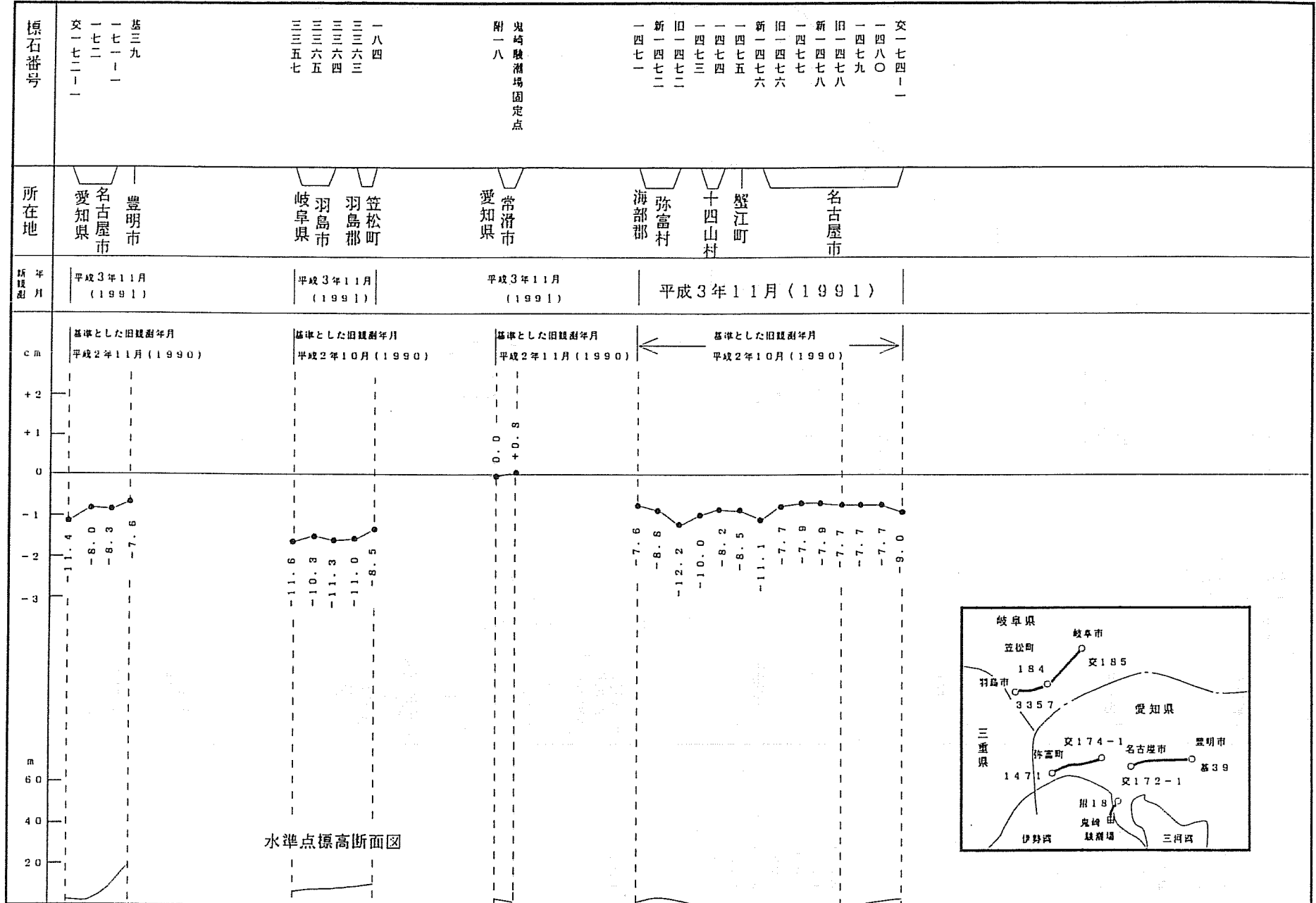
静岡県榛原郡御前崎町



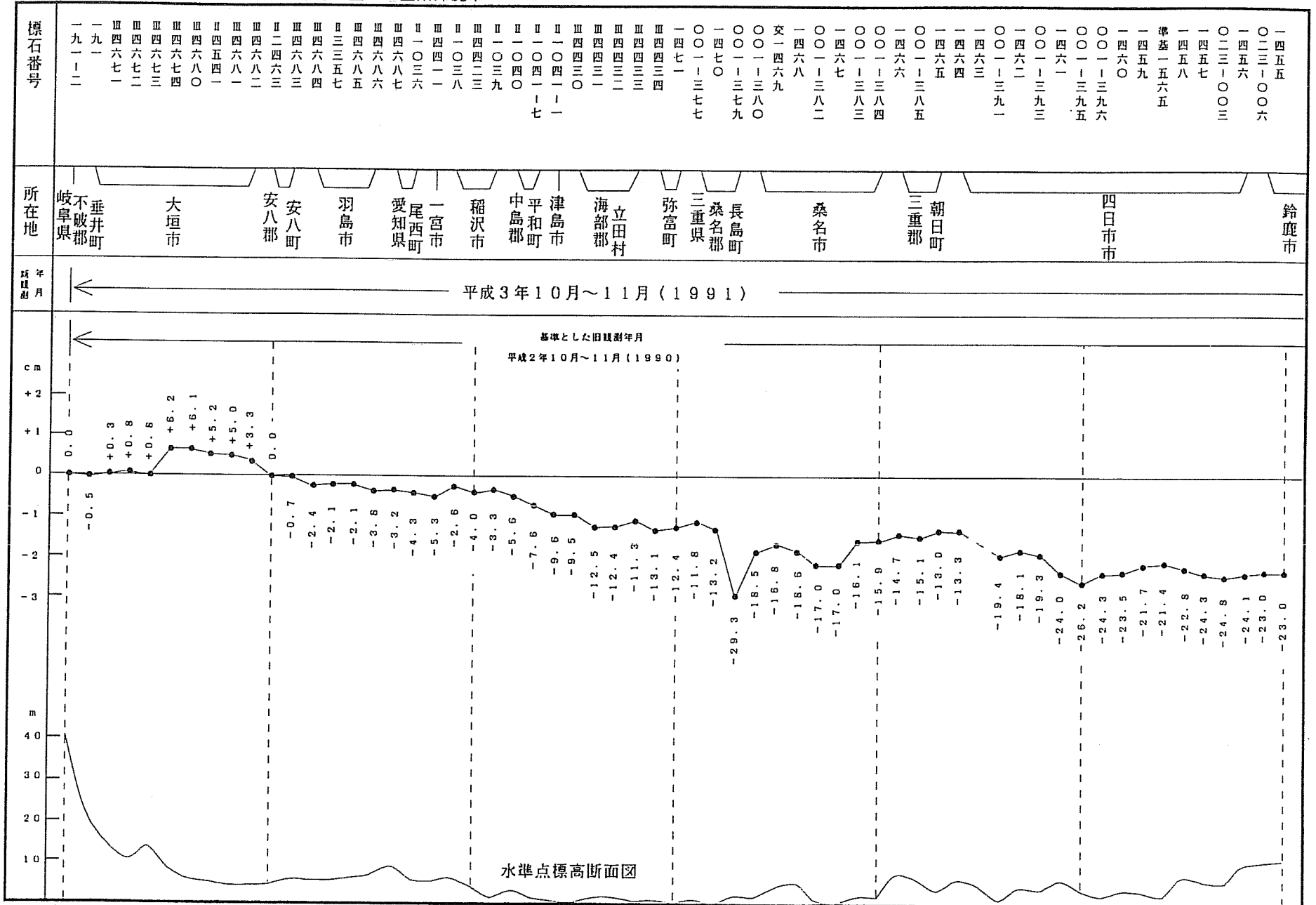


3-19-I 自 岐阜県不破郡垂井町 至 愛知県常滑市





3-19-III 自 岐阜県不破郡垂井町 至 三重県鈴鹿市

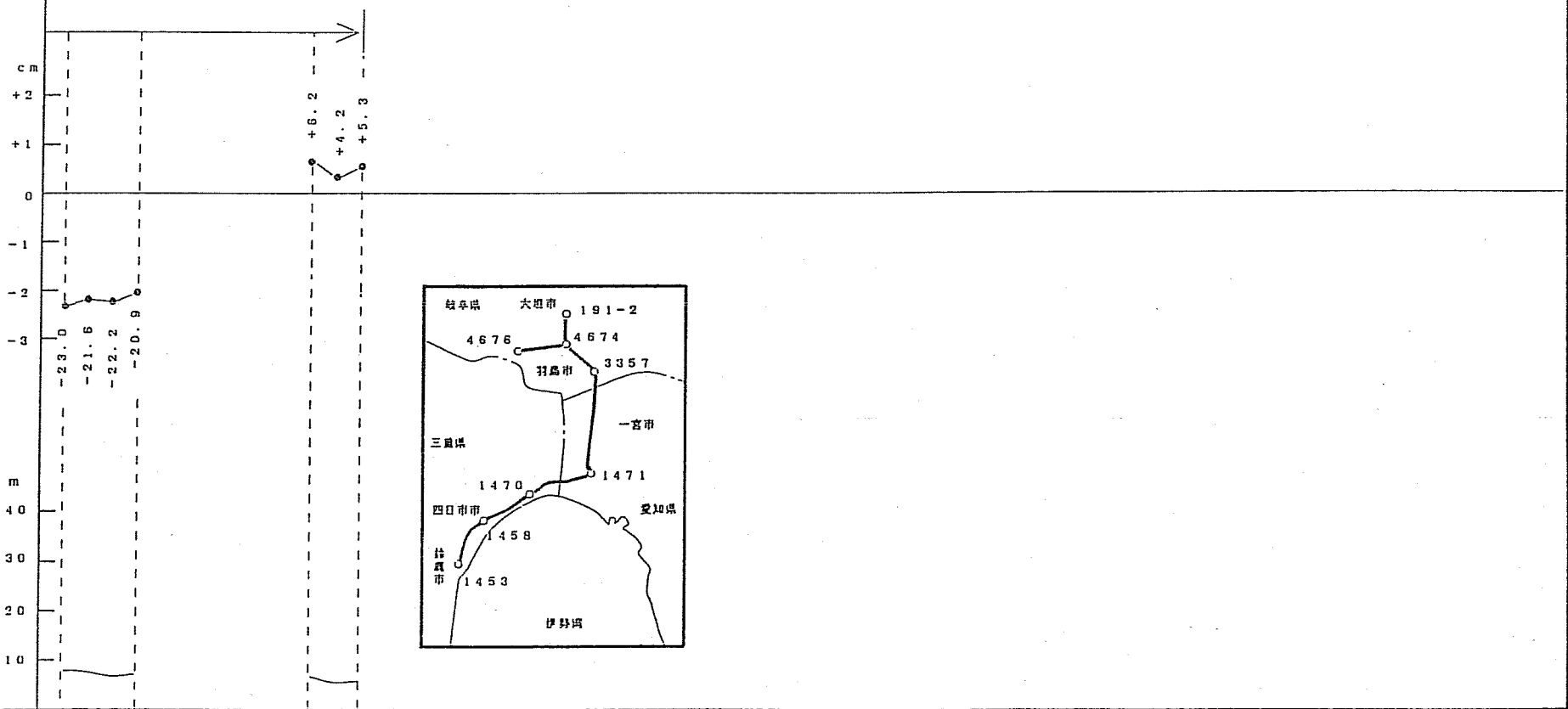


日 岐阜県大垣市
 至 岐阜県羽老郡羽老町

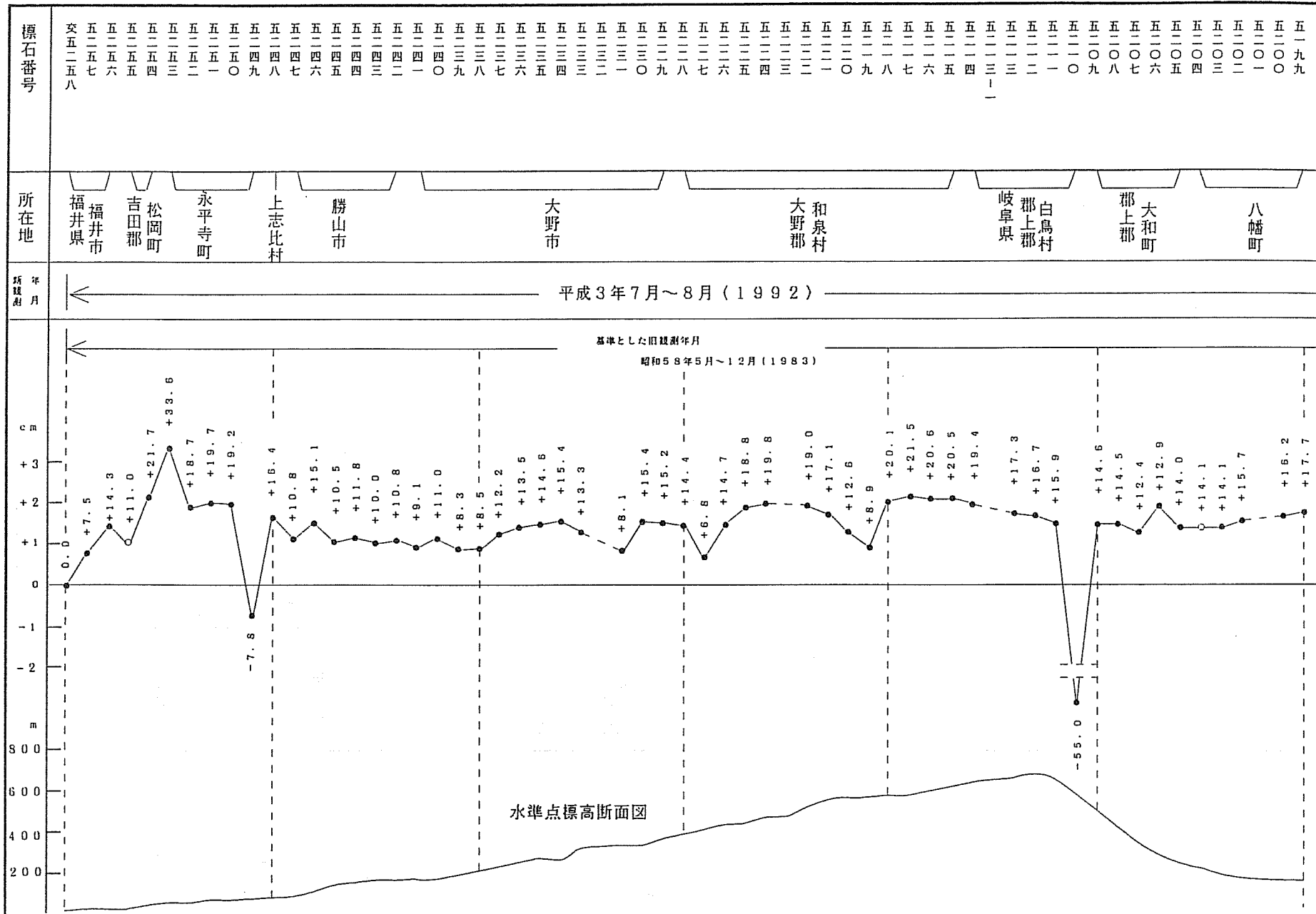
標石番号	一四四五 一四五四 〇二一〇〇七 一四五五	Ⅲ四六七五 Ⅲ四六七四 Ⅲ四六七六 Ⅲ四六七五
------	--------------------------------	----------------------------------

所在地	鈴鹿市 岐阜県 大垣市 養老郡 養老町
-----	---------------------------------

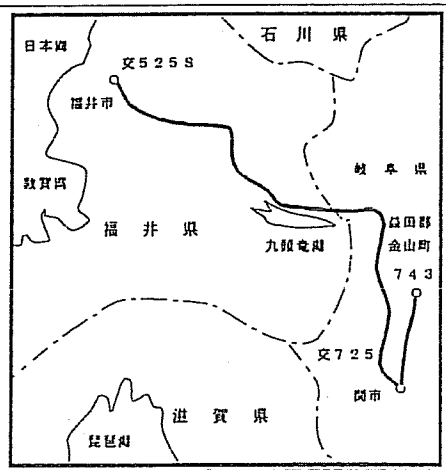
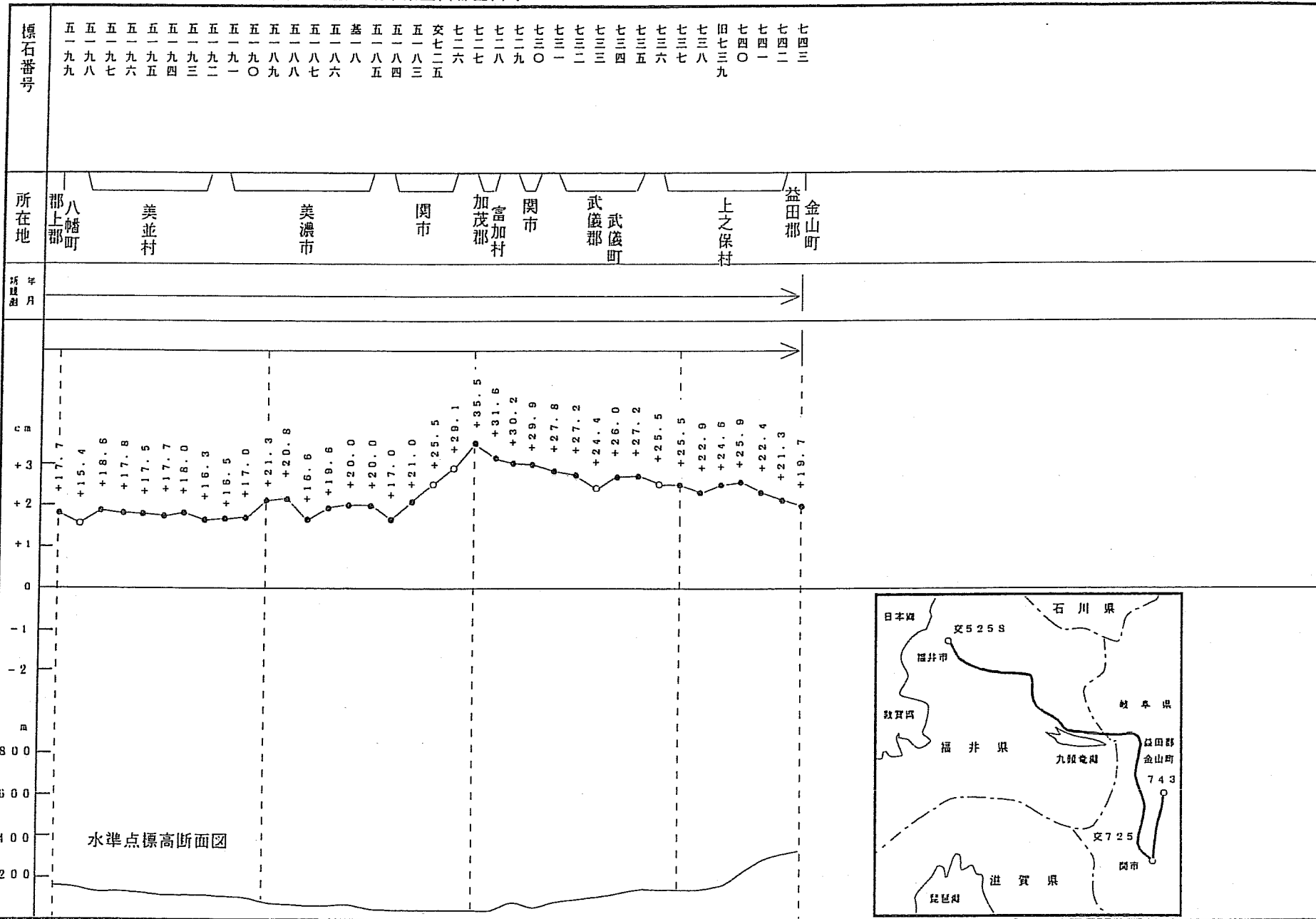
設置期	年 月 →
-----	-------------



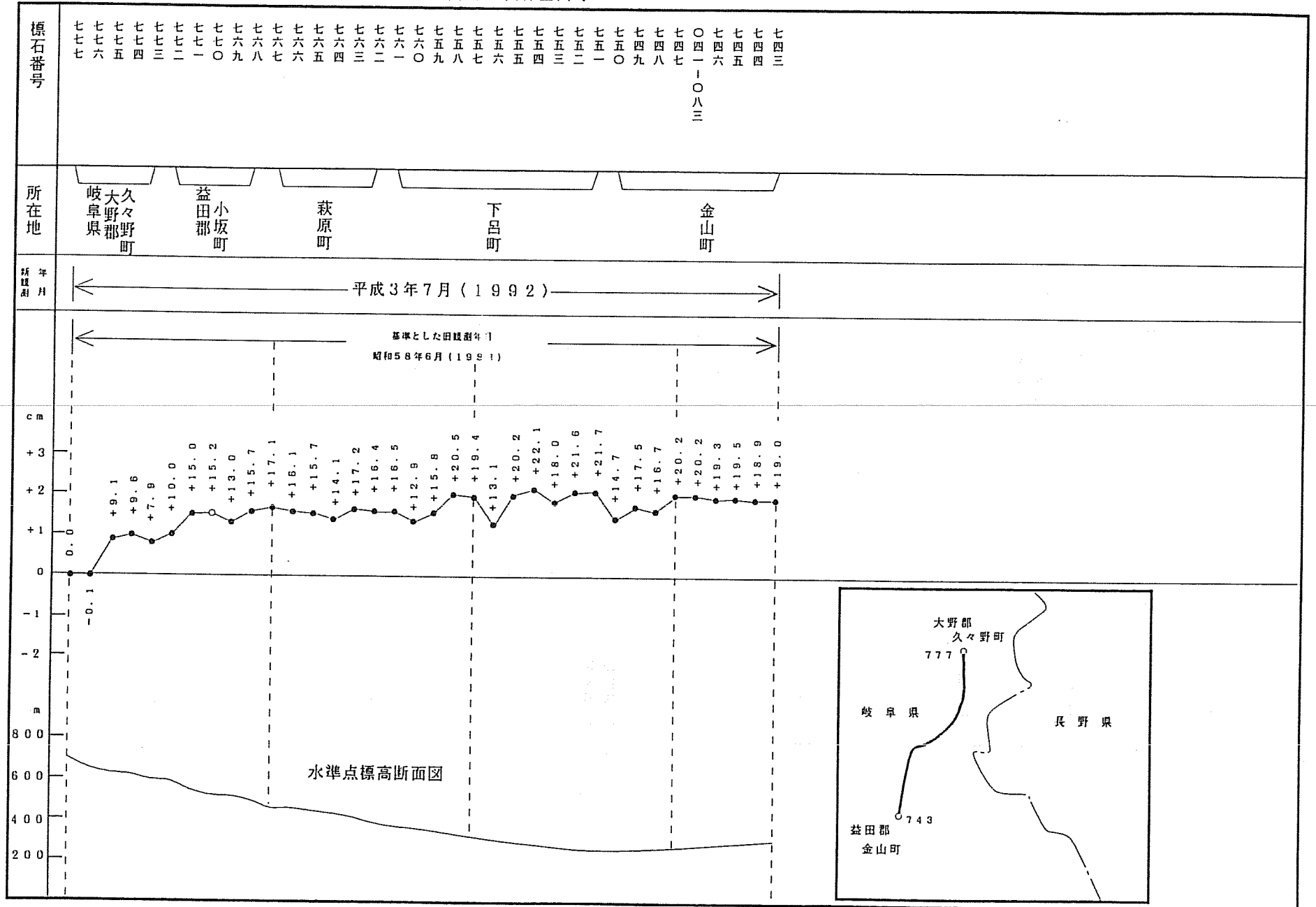
3-20-1 自 福井県福井市 至 岐阜県益田郡金山町



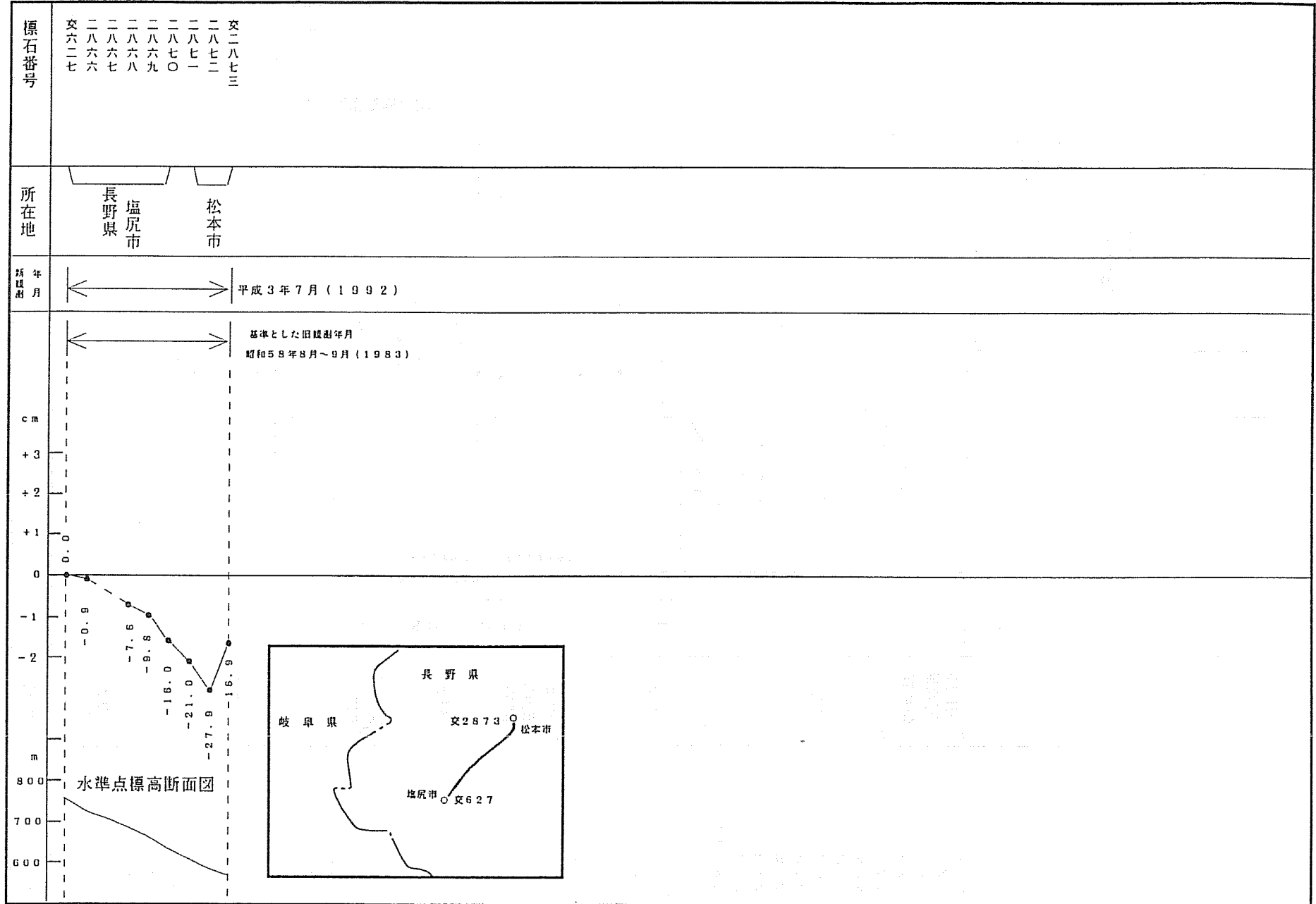
3-20-I 自 福井県福井市 至 岐阜県益田郡金山町



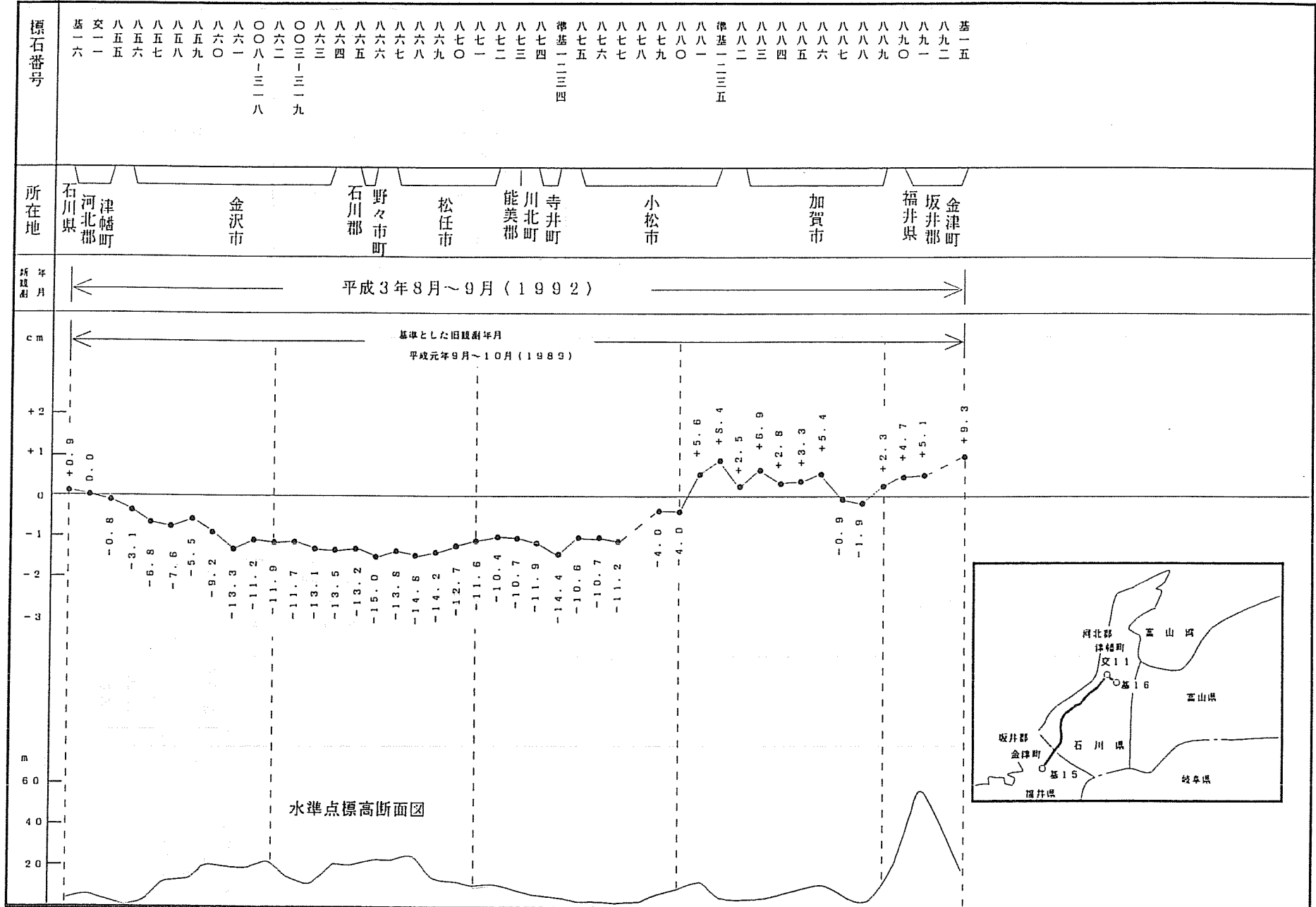
3-20-II 自 岐阜県大野郡久々野町 至 岐阜県益田郡金山町



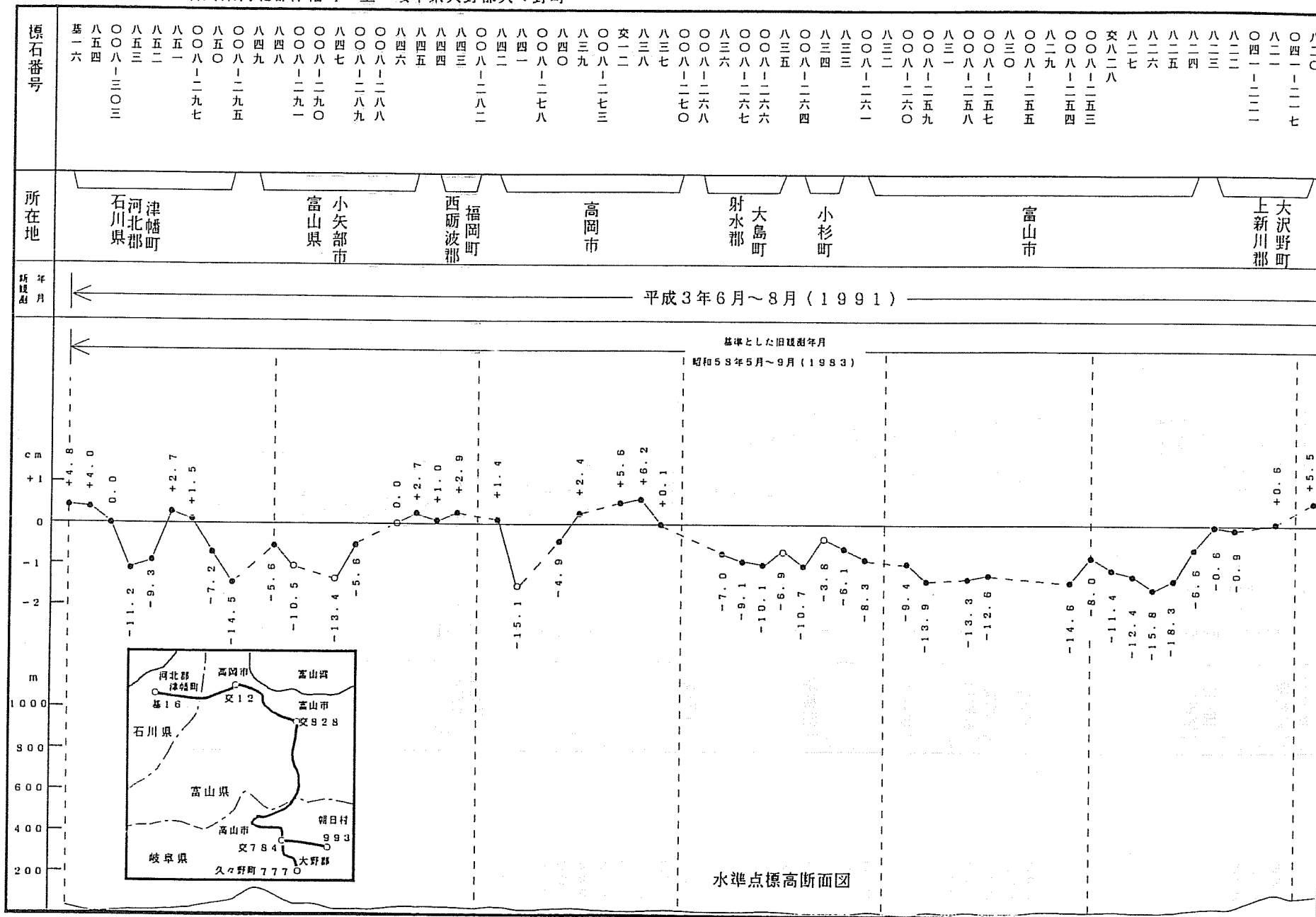
3-20-IV 自 長野県塩尻市 至 長野県松本市

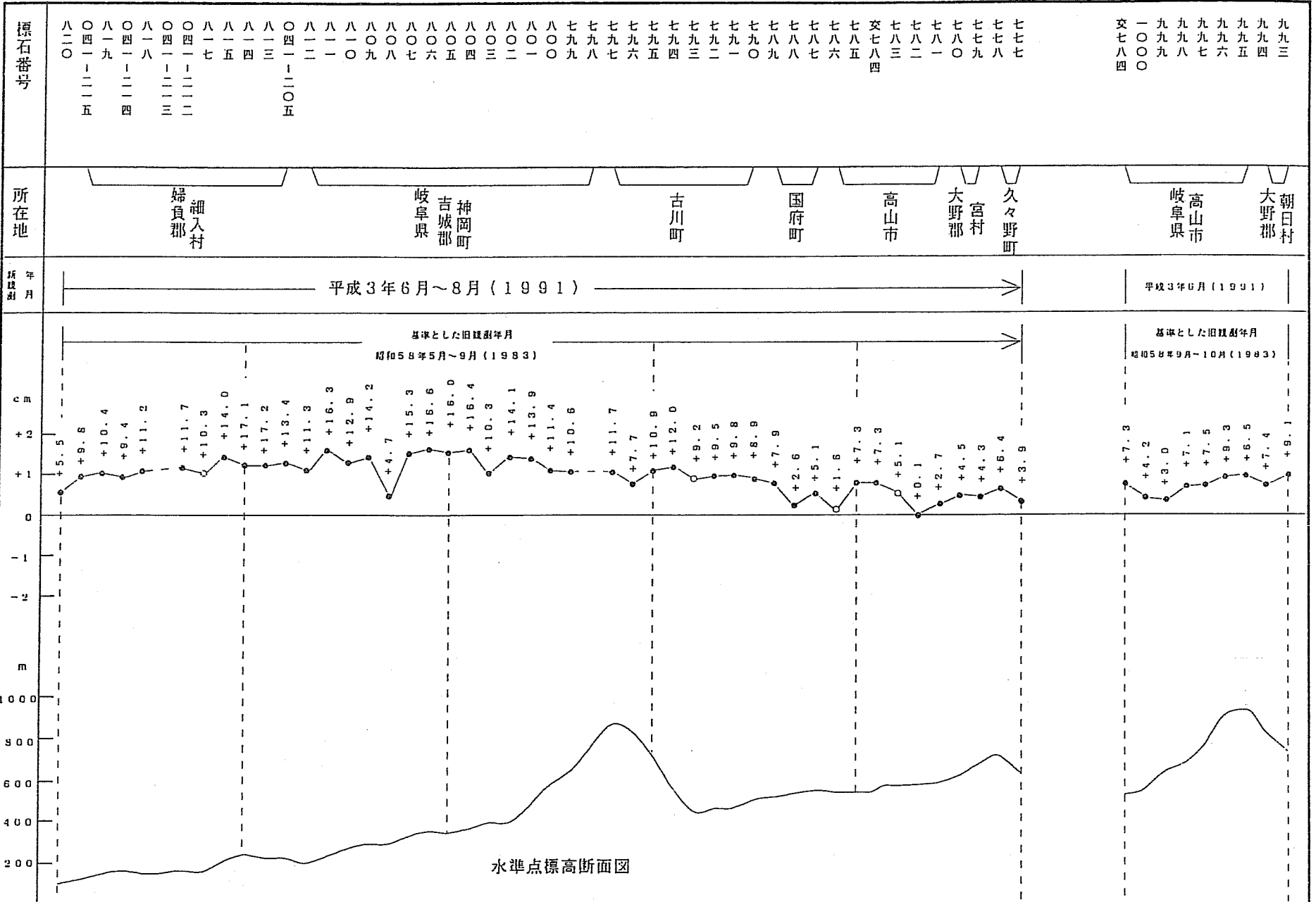


3-21-I 自 石川県河北郡津幡町 至 福井県坂井郡金津町

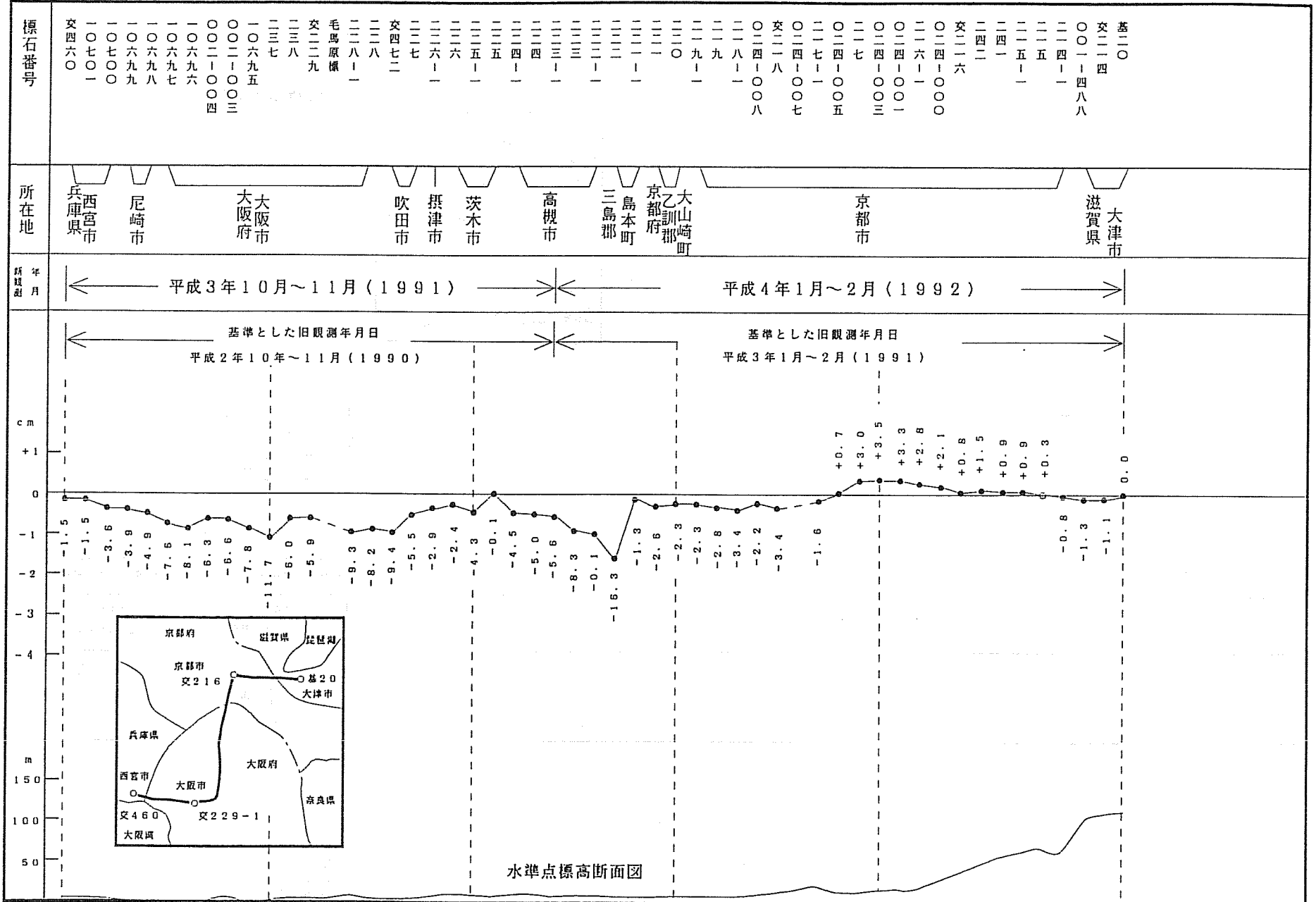


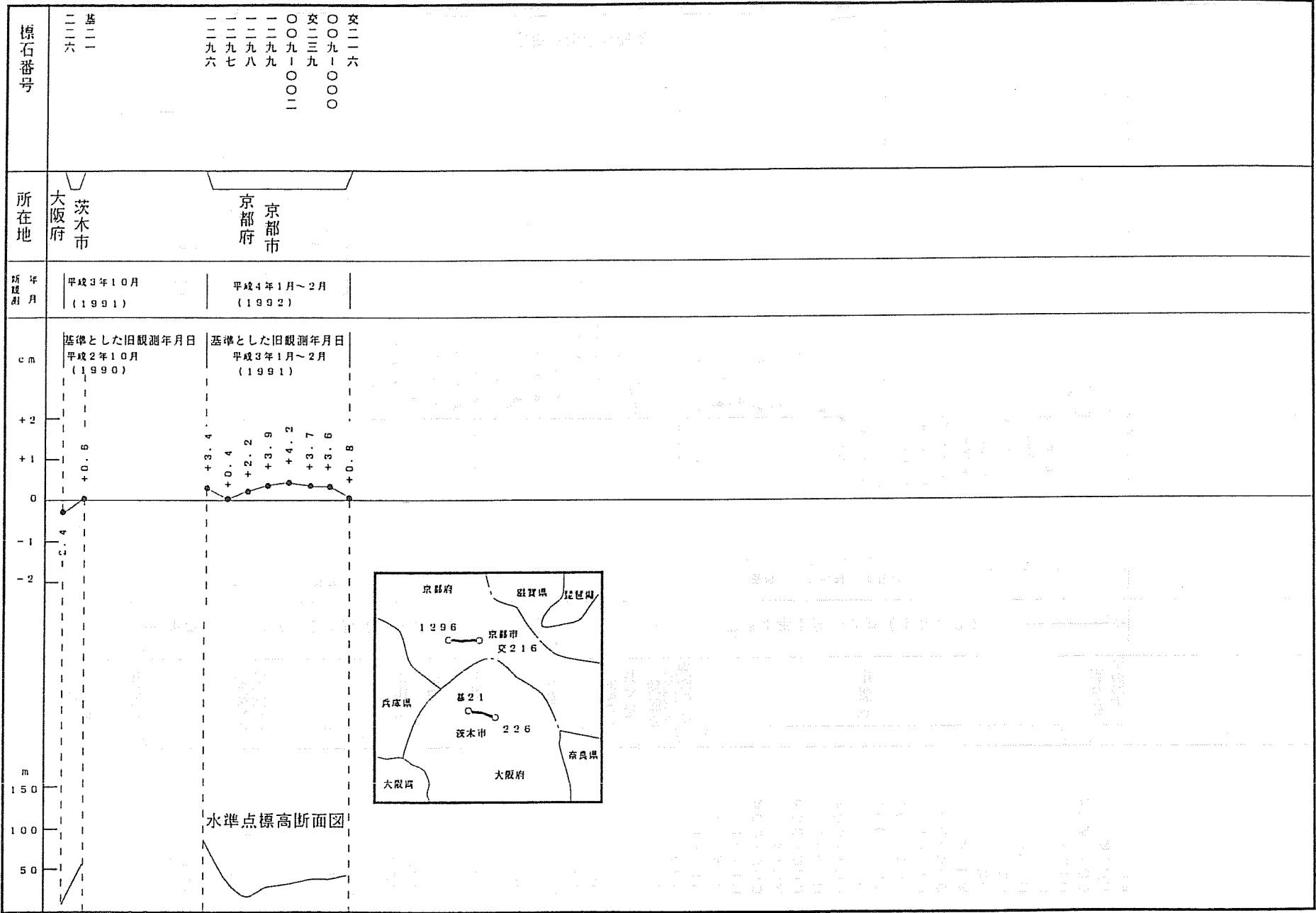
3-21-II 自 石川県河北郡津幡町 至 岐阜県大野郡久々野町





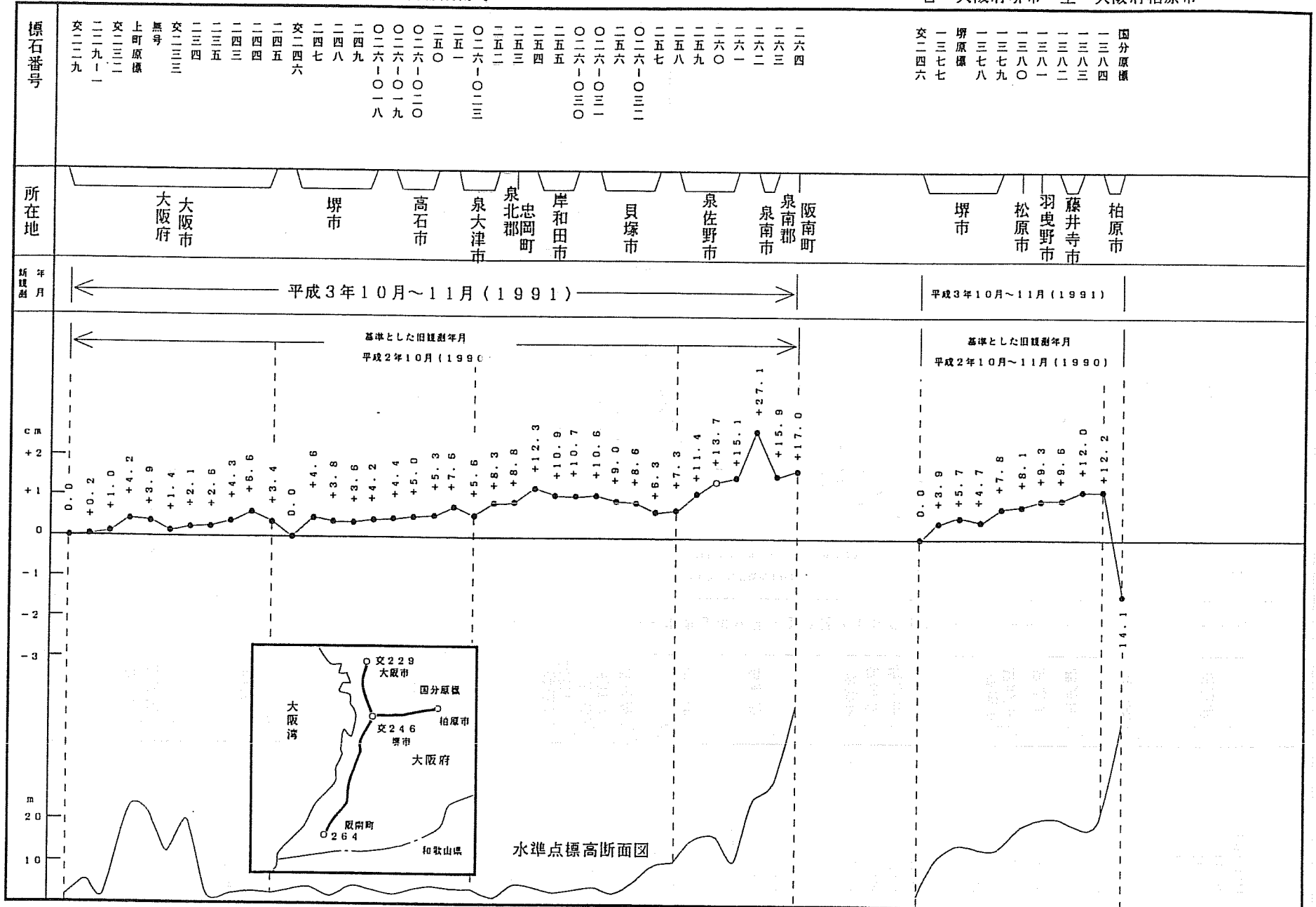
3-22-I 自 兵庫県西宮市 至 滋賀県大津市



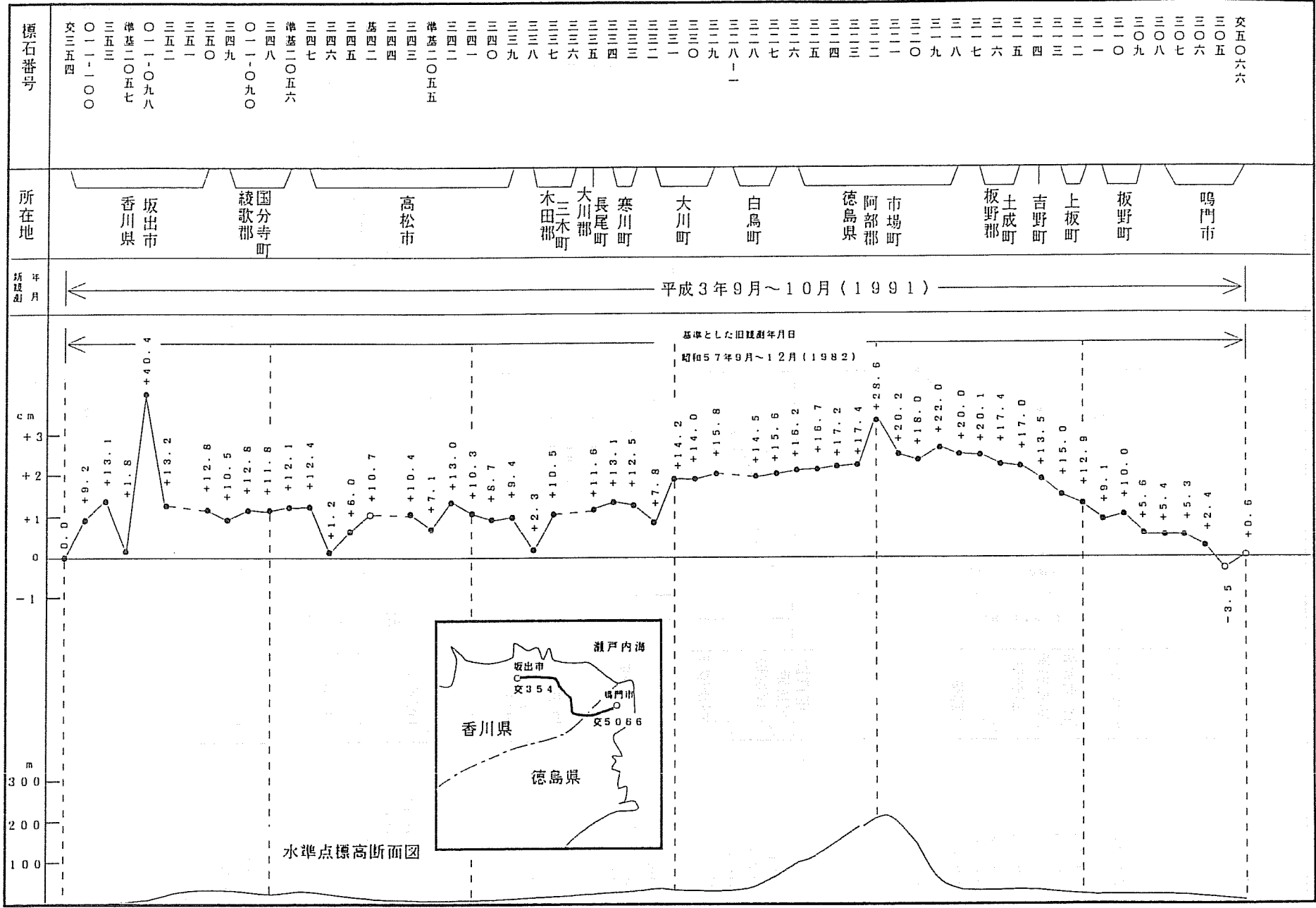


3-22-III 自 大阪府大阪市 至 大阪府泉南郡阪南町

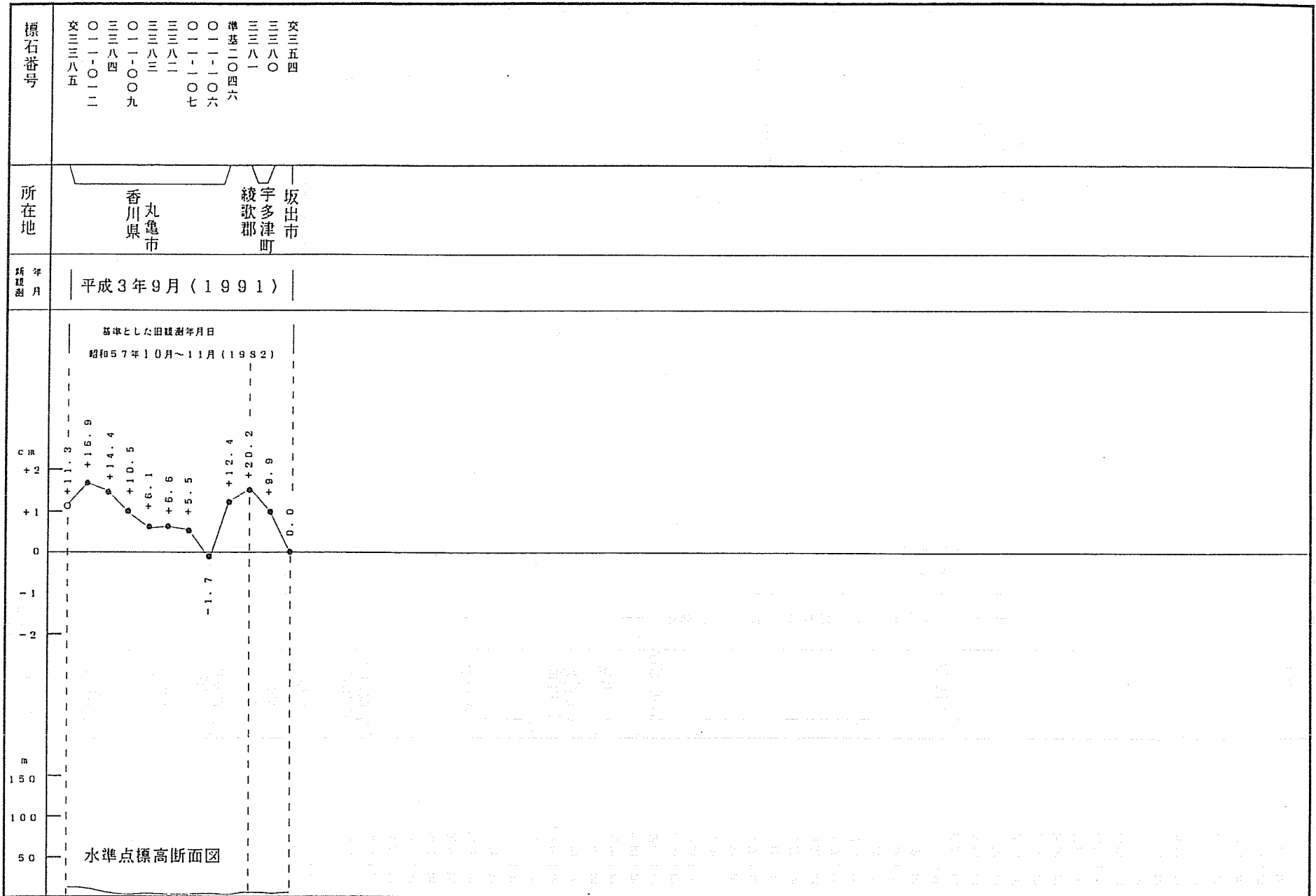
自 大阪府堺市 至 大阪府柏原市



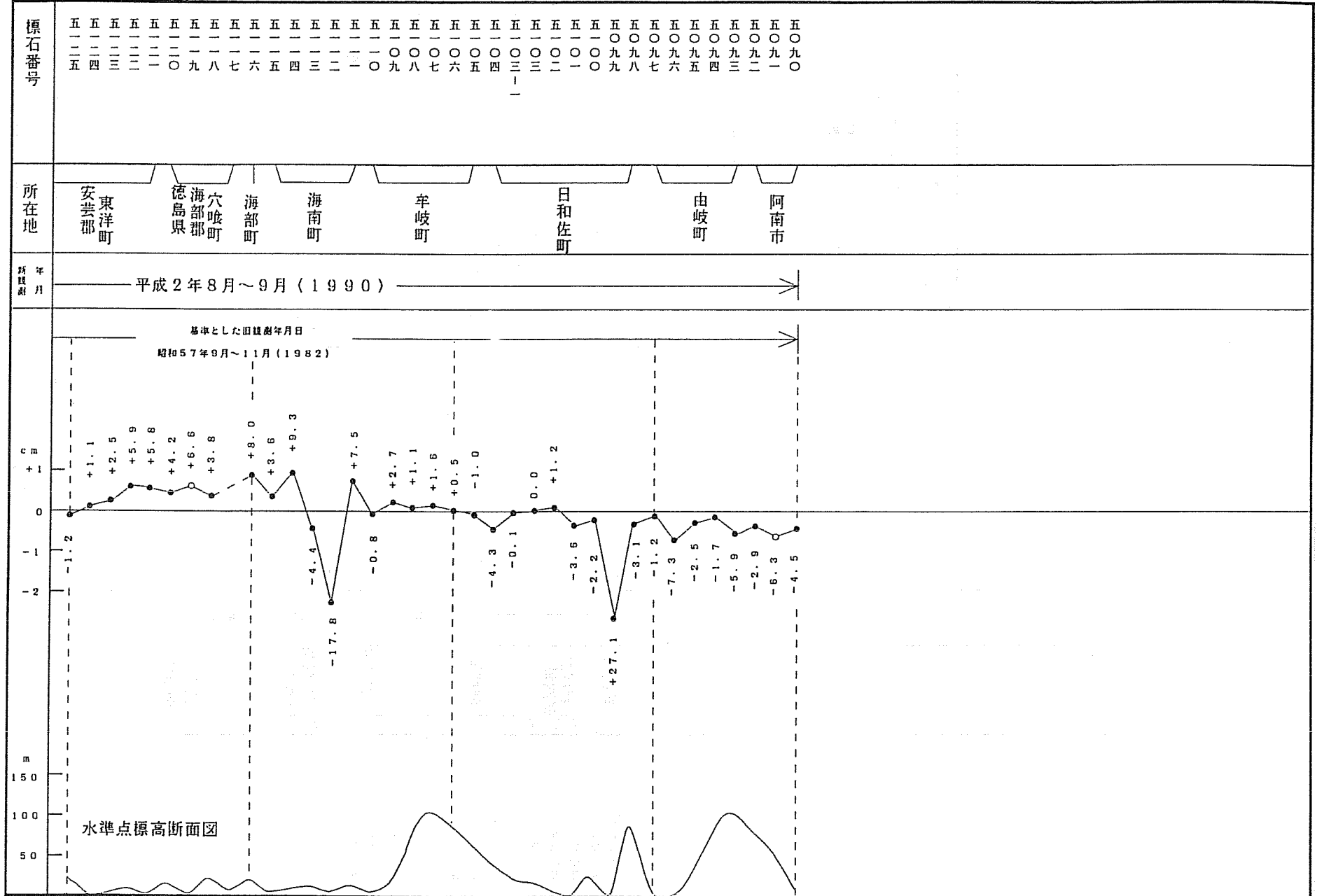
3-23-1 自 香川県坂出市 至 徳島県鳴門市



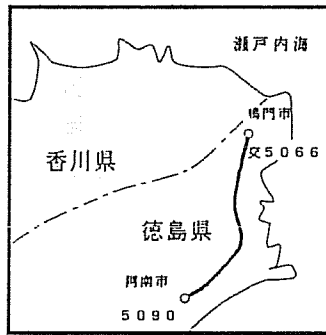
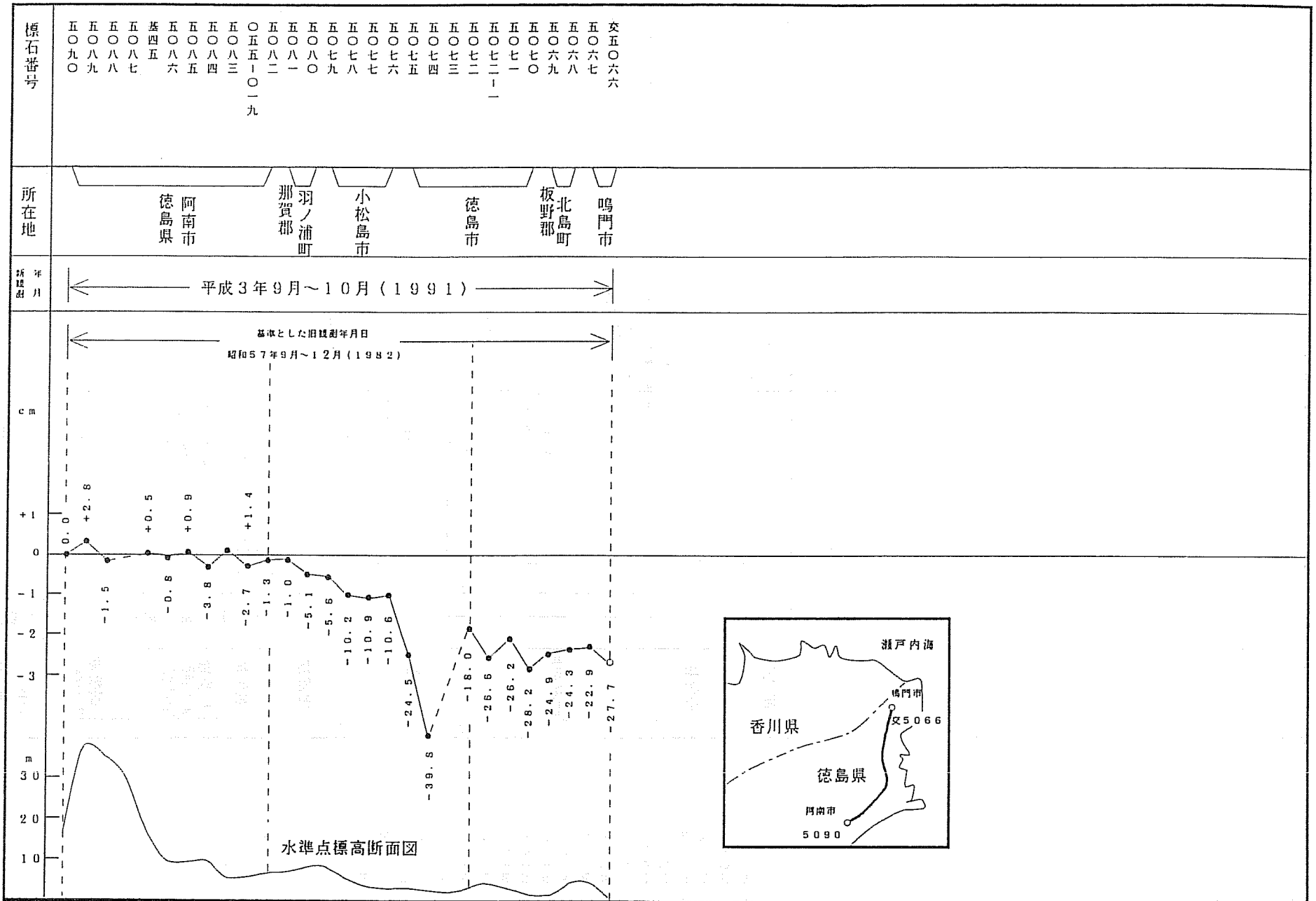
2-23-II 自 香川県丸亀市 至 香川県坂出市



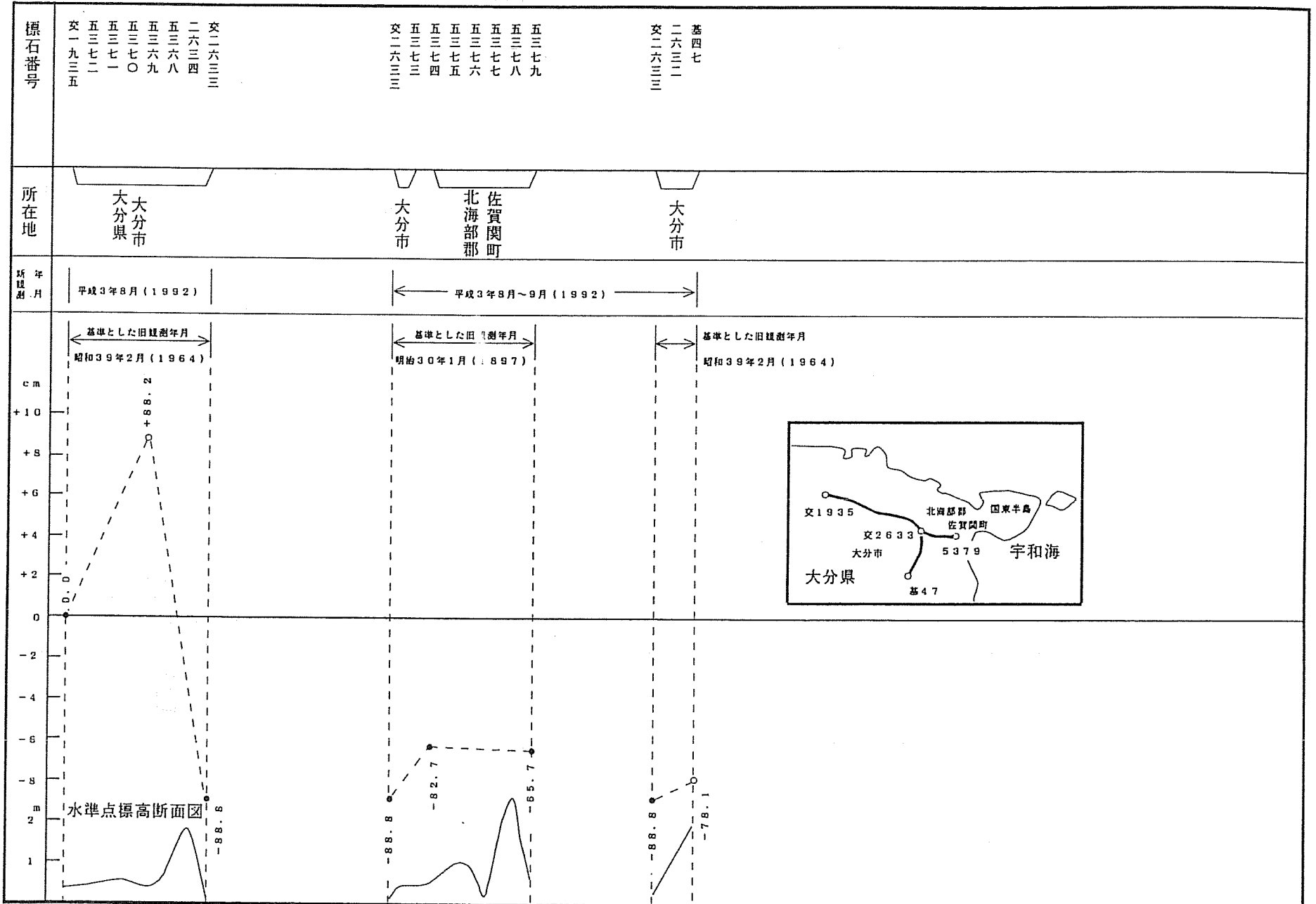
3-23-III 自 高知県高知市 至 徳島県阿南市



3-23-IV 自 徳島県阿南市 至 徳島県鳴門市



3-25 自 大分県大分市 至 大分県北海部郡佐賀関町



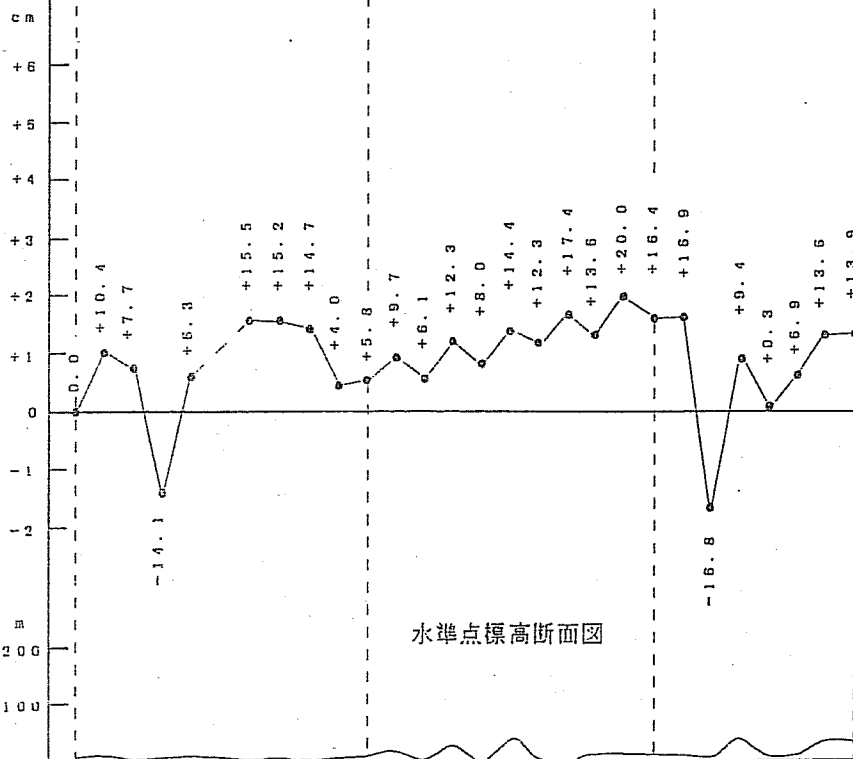
<p>標石番号</p>	<p>九七〇九 九七〇九 九七〇〇 九七一〇 九七一〇 九七一〇 九七一〇 九七一〇 九七一〇 九七一〇</p>
<p>所在地</p>	<p>沖縄県 国頭郡 国頭村</p>
<p>新設年月</p>	<p>←平成3年7月(1991)→</p>
<p>新設月</p>	<p>←基準とした旧観測年月 昭和54年6月(1979)→</p> <p>水準点標高断面図</p>

標石番号
 一一二六四
 一一二六三
 一一二六二
 一一二六一
 一一二六〇
 一一二五九
 一一二五八
 一一二五七
 一一二五六
 一一二五五
 一一二五四
 一一二五三
 一一二五二
 一一二五一
 一一二五〇
 一一二四九
 一一二四八
 一一二四七
 一一二四六
 一一二四五
 一一二四四
 一一二四三
 一一二四二
 一一二四一
 一一二四〇
 一一二三九
 一一二三八
 一一二三七

所在地
 沖縄県
 八重山郡
 竹富町

年月
 平成3年5月~6月(1991)

基準とした旧観測年月
 昭和57年11月~12月(1982)



水準点標高断面図

